

Windows Server 2025 インストール補足説明書

NEC Expressサーバ
Express5800シリーズ

Express5800/T110m-S Express5800/T110m

- 1章 Windowsのインストール
- 2章 保守
- 3章 付録

目次

目次	2
はじめに	4
表記	5
本文中の記号	5
「光ディスクドライブ」の表記	5
「ハードディスクドライブ」の表記	5
「リムーバブルメディア」の表記	5
オペレーティングシステムの表記	6
「製品名」の表記	6
商標	7
本書に関する注意と補足	8
最新版	8
1 章 Windows のインストール	9
1. セットアップを始める前に	10
1.1 インストール可能な Windows OS	11
1.2 インストールオプションについて	11
1.3 サポートしている大容量記憶装置コントローラー	12
1.4 サポートしているオプションの LAN ボード	13
1.5 Windows Server 2025 へのインプレースアップグレードについて	14
1.6 差分モジュール(Starter Pack)のダウンロード	15
2. Windows Server 2025 の新規インストール	16
2.1 インストール前の確認事項	16
2.2 インストールの流れ	24
2.3 インストール前の準備	25
2.3.1 インストールに必要なもの	25
2.4 新規インストールの手順	26
3. 差分モジュール(Starter Pack)の適用	36
4. デバイスドライバーのセットアップ	38
4.1 LAN ドライバーのインストール	38
4.1.1 LAN ドライバーについて	38
4.1.2 オプションの LAN ボード	38
4.1.3 ネットワークアダプター名	39
4.2 LAN ドライバーのセットアップ	40
4.2.1 リンク速度の設定	40
4.2.2 フロー制御 (Flow Control) の設定	40
4.2.3 Wake On LAN の設定	41
4.3 グラフィックス アクセラレータ ドライバー	41
4.4 オプションのグラフィックスアクセラレータカードを使用する場合	41
4.5 SAS コントローラー(N8103-199)を使用する場合	42
4.6 オンボードの RAID コントローラーを使用する場合	42
4.7 RAID コントローラー(N8103-225/232/233/234/235)を使用する場合	42
5. ライセンス認証の手続き	43
5.1 デスクトップ エクスペリエンスの場合	43
5.2 Server Core の場合	48

6. Windows Server 2025 NIC チーミング(LBFO)の設定	49
6.1 NIC チーミング設定ツールの起動	49
6.2 チームの作成	49
6.3 チームの削除	50
6.4 注意・制限事項	50
7. 障害処理のためのセットアップ	52
7.1 メモリダンプ（デバッグ情報）の設定	52
7.2 ユーザーモードのプロセスダンプの取得方法	58
2章 保 守	59
1. 障害情報の採取	60
1.1 イベントログの採取	60
1.2 構成情報の採取	62
1.3 ユーザーモードプロセスダンプの採取	63
1.4 メモリダンプの採取	63
2. トラブルシューティング	64
2.1 内蔵デバイス、その他ハードウェア使用時のトラブル	64
3. Windows システムの修復	65
3.1 Windows Server 2025 の修復	65
3章 付 録	66
1. Windows イベントログ一覧	67
改版履歴	78

はじめに

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

Windows Server 2025をインストールするときは、本書の「Windows Server 2025 インストール補足説明書」を参照してください。

本書は、次の差分モジュール(Starter Pack)を対象としています。

対象のバージョン	
差分モジュール (Starter Pack)	WS2025.10-001.01

本機のファームウェア、ドライバー、ソフトウェアなどの注意事項は、Windows Server 2025 サポートキットのダウンロードサイトを参照してください。

サポートキットの最新情報は、次のWebサイトから確認できます。

<https://www.support.nec.co.jp/>




(「NEC サポートポータル内検索」より、「WS2025.10-001」で検索)

本書は、必要なときにすぐに参照できるよう、大切に保管してください。

表 記

本文中の記号

本書では、3種類の記号を使用しています。これらの記号は、次のような意味をもちます。

	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、守らなければならないことについて示しています。記載の手順に従わないときは、ハードウェアの故障、データの損失など、 <u>重大な不具合が起きるおそれがあります。</u>
	ハードウェアの取り扱い、ソフトウェアの操作などにおいて、事前に確認する点を示しています。
	知っておくと役に立つ情報、便利なことについて示しています。

「光ディスクドライブ」の表記

本機は、購入時のオーダーによって以下のいずれかのドライブを装備できます。

本書では、これらのドライブを「光ディスクドライブ」と記載します。

- DVD-ROM ドライブ
- DVD Super MULTI ドライブ

「ハードディスクドライブ」の表記

本書で記載のハードディスクドライブとは、特に記載のないかぎり、以下の両方を意味します。

- ハードディスクドライブ(HDD)
- ソリッドステートドライブ(SSD)

「リムーバブルメディア」の表記

本書で記載のリムーバブルメディアとは、特に記載のないかぎり、以下の両方を意味します。

- USB メモリ
- Flash FDD

オペレーティングシステムの表記

本書では、Windows OS を次のように表記します。

本機でサポートしている OS の詳細は、「1 章（1.2 インストール可能な Windows OS）」を参照してください。

本書の表記	Windows OSの名称
Windows Server 2025	Windows Server 2025 Standard
	Windows Server 2025 Datacenter
	Windows Server 2025 Essentials

「製品名」の表記

本書は、下記の対象装置向けのドキュメントです。本文中に特に記載がない場合は、すべての製品についての説明となります。製品ごとに内容が異なる場合、それぞれについて製品名を記載した説明になっております。

対象装置は、次のとおりです。

Express5800/T110m-S

Express5800/T110m

商 標

EXPRESSBUILDERとESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Serverは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
なお、TM、® は必ずしも明記しておりません。

本書に関する注意と補足

1. 本書の一部または全部を無断転載することを禁じます。
2. 本書に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. 弊社の許可なく複製、改変することを禁じます。
4. 本書について誤記、記載漏れなどお気づきの点があった場合、お買い求めの販売店まで連絡してください。
5. 運用した結果の影響については、4 項に関わらず弊社は一切責任を負いません。
6. 本書の説明で用いられているサンプル値は、すべて架空のものであります。

この説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いてください。

最新版

本書は作成日時点の情報をもとに作られており、画面イメージ、メッセージ、または手順などが実際のものと異なる場合があります。変更されているときは、適宜読み替えてください。

また、説明書の最新版は、次の Web サイトからダウンロードできます。

<https://jpn.nec.com/>

Windows のインストール

本書は、物理環境へのセットアップの手順を説明しています。

ここで説明する内容をよく読み、正しくセットアップしてください。

1. セットアップを始める前に

本書で説明する対象モデルやインストール可能な Windows OS や、大容量記憶装置用コントローラーについて説明しています。



オプションのグラフィックスアクセラレータカードが搭載されている場合は、カードに添付されているグラフィックスアクセラレータのスタートアップガイドおよびユーザーズガイドの内容を確認し、BIOS の設定を正しく行ってください。

2. Windows Server 2025 の新規インストール

Windows Server 2025 の新規インストールについて説明しています。

3. 差分モジュール(Starter Pack) の適用

差分モジュール(Starter Pack) の適用について説明しています。

4. デバイスドライバーのセットアップ

各種ドライバーのインストールとセットアップについて説明しています。

5. ライセンス認証の手続き

ライセンス認証の手続きについて説明しています。

6. Windows Server 2025 NIC チーミング(LBFO)の設定

Windows Server 2025 NIC チーミング(LBFO)の設定について説明しています。

7. 障害処理のためのセットアップ

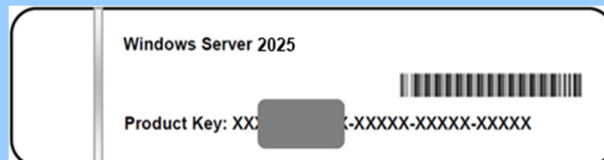
問題が起きたとき、より早く、確実に復旧できるようにするためのセットアップについて説明しています。

1. セットアップを始める前に

Windows オペレーティングシステムをセットアップするときの確認事項について説明します。



COA(Certificate of Authenticity)ラベルに記載されたプロダクトキーは、ライセンス認証時に必要な情報です。プロダクトキーの一部を覆うスクラッチは、コインなどで“軽く”削ってください。削るときは、プロダクトキーの印字部分を傷つけないよう取り扱いにご注意ください。



もし、剥がれて紛失したり、汚れて見えなくなったりしたときでも、ラベルは再発行できません。プロダクトキーをメモし、他の添付品と一緒に保管することをお勧めします。

仮想 OS のインストールについては、下記を確認します。

仮想基盤が Hyper-V のとき

下記の web サイトより、Hyper-V 設定およびゲスト OS のインストール手順などについて確認します。

Windows Server 2025 : <https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109865>

仮想基盤が Hyper-V 以外のとき

各仮想基盤ベンダーの資料を参考に、仮想基盤側の準備を行います。インストールする OS のメディアまたは ISO イメージをご用意ください。

- ① 仮想マシンをインストールする OS のメディアまたは ISO イメージから起動します。
- ② 表示される画面の内容を確認し、OS インストールを完了します。
- ③ 各仮想基盤ベンダーの資料を参考に、必要なサービスやアプリケーションを、適宜インストールします。

1.1 インストール可能な Windows OS

以下の Windows OS(エディション)をサポートしています。エディションは 64 ビット版のみです。

Windows OS		ブートモード	
		UEFI	Legacy
Windows Server 2025	Standard	○	—
	Datacenter	○	—
	Essentials ※	○	—

○ : サポート

※ デスクトップ エクスペリエンスのみ

1.2 インストールオプションについて

本書では、Windows Server 2025 のインストールオプションを以下のように表記します。

- GUI ベースのインストールオプション
本書では「デスクトップ エクスペリエンス」と呼びます。
- CUI ベースのインストールオプション
本書では「Server Core」と呼びます。

1.3 サポートしている大容量記憶装置コントローラー

差分モジュール(Starter Pack) では、以下の大容量記憶装置コントローラーをサポートしています。
下記以外のコントローラーを使うときは、コントローラーに添付の説明書を参照してください。

	T110m-S	T110m
差分モジュール(Starter Pack)にて OS のインストールをサポートしているコントローラ		
オンボードの RAID コントローラー	○	○
N8103-225 RAID コントローラ(4GB RAID 0/1/5/6)	○	○
N8103-232 RAID コントローラ(RAID 0/1)	○	○
N8103-233 RAID コントローラ(2GB RAID 0/1)	○	○
N8103-234 RAID コントローラ(2GB RAID 0/1/5/6)	○	○
N8103-235 RAID コントローラ(2GB RAID 0/1)	○	○
その他のオプション		
N8103-199 SAS コントローラ	—	○

○ : サポート

1.4 サポートしているオプションの LAN ボード

差分モジュール(Starter Pack) では、以下の LAN ボードをサポートしています。

	T110m-S	T110m
N8104-157A 10GBASE-T 接続ボード(2ch)	○	○
N8104-202 1000BASE-T 接続ボード(2ch)	○	○
N8104-203 1000BASE-T 接続ボード(4ch)	○	○

○ : サポート

1.5 Windows Server 2025 へのインプレースアップグレードについて

Windows Server 2022 や Windows Server 2019 から Windows Server 2025 へのインプレースアップグレードは、システムやアプリケーションへ思わぬ影響を与える可能性があるため、推奨しません。

Windows Server 2025 をご使用になる場合は、本書「1 章(2. Windows Server 2025 の新規インストール)」を参照し、事前に必要なユーザーデータのバックアップをとり、Windows Server 2025 をインストールしなおしてください。



- インプレースアップグレードとは、すでにインストールされている Windows Server 2022 や Windows Server 2019 を Windows Server 2025 へ上書きアップグレードすることです。
- 評価版から製品版へのアップグレードは、システムやアプリケーションへ思わぬ影響を与える可能性があるため、推奨しません。

1.6 差分モジュール(Starter Pack)のダウンロード

あらかじめ、本機対応の差分モジュール(Starter Pack)をダウンロードしてください。

1. 差分モジュール(Starter Pack)をダウンロードします。
 - ① NEC サポートポータル(<https://www.support.nec.co.jp/>) の「NEC サポートポータル内検索」より、「WS2025.10-001」で検索します。
 - ② 該当するモデルの最新版サポートキットを参照し、差分モジュールを入手します。
2. ダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダー(例：C:\TEMP)に展開します。
展開先のフォルダーには、2 バイト文字や空白文字(スペース)を含むフォルダーは指定できません。



フォルダーの階層が深すぎるとセットアッププログラムの展開が正しく実行できないことがあります。

DVD などにコピーする場合は、展開したファイル・フォルダー構造のままコピーします。



DVD をご使用の場合は、Windows でアクセスできる形式(OS 標準機能など)で書き込みしてください。

ここでモジュールをコピーした DVD を、本書では「Starter Pack DVD」と呼びます。

3. モジュールのコピーが完了したら、ハードディスクドライブ上へ展開したファイル・フォルダーは、すべて削除してください。

以上で完了です。

2. Windows Server 2025 の新規インストール

2.1 インストール前の確認事項

インストールを始める前に、ここで説明する注意事項について確認してください。

ライセンス認証の手続き

Windows Server 2025 のライセンス認証を行う際に使用するプロダクトキーは、COA ラベルに記載されたプロダクトキーと一致させる必要があります。

Windows Server 2025 の COA ラベルは購入された OS インストールメディアのパッケージまたは、本体装置に貼付されています。「1 章(5. ライセンス認証の手続き)」を参照し確認してください。

差分モジュール(Starter Pack) の適用

差分モジュール(Starter Pack) は Express5800 シリーズに必要なドライバーを適用します。

必ず差分モジュール(Starter Pack) を適用してください。

BIOS のアップデート

Windows Server 2025 をインストールするために、BIOS のアップデートが必要な場合があります。

BIOS のアップデートが必要かどうかは、[Windows Server 2025 サポート情報](「1.6 差分モジュール(Starter Pack)のダウンロード」を参照) – [Windows Server 2025 サポートキット]から、対応モジュールの有無を確認しておいてください。

また、アップデート手順に関しては、各装置の BIOS ダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」などを参照してください。

BMC ファームウェアのアップデート

Windows Server 2025 をインストールするために、BMC ファームウェアのアップデートが必要な場合があります。BMC ファームウェアのアップデートが必要かどうかは、[Windows Server 2025 サポート情報](「1.6 差分モジュール(Starter Pack)のダウンロード」を参照) – [Windows Server 2025 サポートキット]から、対応モジュールの有無を確認しておいてください。

また、アップデート手順に関しては、各装置の BMC ファームウェアダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」などを参照してください。

BIOS の設定

ブートモードを UEFI モードに設定してください。

本機のブートモードは、UEFI モード固定です。

再セットアップするときは、BIOS 設定メニューの[FIXED BOOT ORDER Priorities]で光ディスクドライブが[Windows Boot Manager]より上位に設定されていることを確認してください。

【正しい設定例】

[Boot] - [FIXED BOOT ORDER Priorities]

- Boot Option #1 [UEFI : 光ディスクドライブ]
 - Boot Option #2 [Windows Boot Manager]
- OS インストールメディアから起動できます。

【誤った設定例】

[Boot] - [FIXED BOOT ORDER Priorities]

- Boot Option #1 [Windows Boot Manager]
 - Boot Option #2 [UEFI : 光ディスクドライブ]
- OS インストールメディアから起動できません。



チェック

- BIOS 設定メニューの表示前に OS インストールメディアを光ディスクドライブへセットしてから実施してください。
- [FIXED BOOT ORDER Priorities] に[Windows Boot Manager] が表示されていないときは、確認の必要はありません。

オプションのグラフィックスアクセラレータカードが搭載されている場合はカードに添付されているグラフィックスアクセラレータのスタートアップガイドおよびユーザーズガイドの内容を確認し、BIOS の設定を正しく行ってください。

TPM Support の設定 が Enable であることを確認します。

プリインストールモデルをご購入の場合、Enable に設定されています。

[Advanced] – [Trusted Computing] – [TPM Support] – [Enable]

注意すべきハードウェア構成

次のようなハードウェア構成においては特殊な手順が必要となります。

ミラー化されているボリュームへの再インストール

Windows の機能で作成したミラーボリュームへインストールするときは、いったんミラーボリュームを無効にしてベーシックディスクに戻し、インストール完了後に再度ミラー化してください。

ミラーボリュームの作成、解除、および削除は、[コンピューターの管理]–[ディスクの管理]を使います。

RDX などの周辺機器

インストール時、RDX 装置は取り外してください。その他、周辺機器によっては休止状態にする必要があります。それぞれの周辺機器の説明書を参照し、適切な状態にしてからセットアップしてください。

LTO などのメディア

インストール時、LTO などのメディアはセットしないでください。

内蔵または外付けで複数の論理ドライブがある構成

Windows Server 2025 をインストールするとき、ハードディスクドライブの選択を誤った場合、意図せず既存のデータを削除する可能性があります。

表示されるハードディスクドライブの容量やパーティションのサイズで対象のディスクドライブを判別してください。

ダイナミックディスクへアップグレードしたハードディスクドライブへの再インストール

ダイナミックディスクへアップグレードしたとき、既存のパーティションを残したままでの再インストールはできません。この場合、Windows 標準のインストーラーを使ってセットアップしてください。

大容量メモリ搭載時のセットアップ

大容量のメモリを搭載するとインストールのときに必要なページングファイルのサイズが大きくなり、デバッグ情報(ダンプファイル)採取のためのパーティションサイズが確保できないことがあります。ダンプファイルを確保できないときは、次のように保存先を別のハードディスクドライブに割り当ててください。

1. 「OSのサイズ + ページングファイルのサイズ」を設定する。
2. 「1章(7. 障害処理のためのセットアップ)」を参照して、デバッグ情報 (ダンプファイルサイズ分) を別のハードディスクドライブに書き込むように設定する。

ダンプファイルを書き込む容量がハードディスクドライブにないときは、「OSのサイズ + ページングファイルのサイズ」でインストール後、新しいハードディスクドライブを増設してください。



チェック

Windows をインストールするパーティションのサイズが「OS のサイズ + ページングファイルのサイズ」より小さいときは、パーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。

ページングファイルを確保できないときは、以下のいずれかを設定してください。

ー メモリダンプの採取に使用するページングファイルをシステムドライブ以外のドライブに設定する

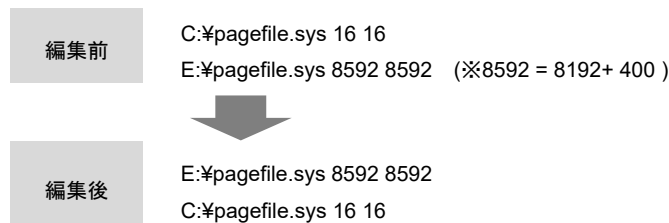
システムドライブ以外のドライブに搭載メモリサイズ+400MB (搭載メモリサイズが4TBを超える場合は、後述の計算式で必要なサイズを計算してください) 以上のページングファイルを作成します。

複数のドライブにページングファイルを設定している場合、レジストリエディターにて、下記のレジストリ値をメモリダンプ採取に使用するドライブが一番上になるように編集します。

キー	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM ¥CurrentControlSet¥Control¥Session Manager¥Memory Management
名前	PagingFiles

例として8 GB (8,192MB) メモリを搭載しており、CドライブとEドライブにページングファイルを設定してEドライブのページングファイルをメモリダンプ採取に使用する場合は記載します。

※下記の数値は設定したページングファイルのサイズにより異なります。



本設定時は、以下に注意のうえ設定してください

- レジストリの編集には十分にご注意ください。
- 設定の反映には再起動が必要です。
- ダイナミックボリューム上のページングファイルはメモリダンプ採取に使用されません。
- メモリダンプ採取にはレジストリの一番上のドライブのみが使用されるため、1つのドライブに「搭載メモリサイズ+400MB (搭載メモリサイズが4TBを超える場合は、後述の計算式で必要なサイズを計算してください) 」以上のページングファイルを設定する必要があります。

※ 下記のようにページングファイルを分割して設定することは誤りです。
メモリダンプが採取できない場合があります。

C: 16MB のページングファイル
D: 搭載メモリサイズ×0.5 のページングファイル
E: 搭載メモリサイズ×0.5 のページングファイル
F: 400MB のページングファイル

- レジストリ編集後にページングファイルの設定画面を[OK]ボタンで閉じた場合は、設定内容に修正を加えていなくても、上記レジストリ値の内容が変更されてしまいます。ページングファイル設定画面がレジストリ編集前から開かれていたか、レジストリ編集後に開かれたかは関係ありません。もしレジストリ値が変更された場合には、レジストリを再度手動で編集する必要と、設定を反映させるためにシステムを再起動させる必要があります。
- 搭載メモリサイズが 4TB を超える場合は、搭載メモリサイズ+257(MB) + (搭載メモリサイズ(TB) × 1024) / 32 のページングファイルサイズが必要です。
例えば、搭載メモリサイズが 5TB の場合、5TB (5,242,880MB) + 257MB + (5 × 1024) / 32 で 5,243,297MB となります。

— システムドライブ以外のドライブに Dedicated Dump File を設定する

レジストリエディターにて以下のレジストリーを作成し、Dedicated Dump File のファイル名を設定します。

<Dドライブに「dedicateddumpfile.sys」を設定するときの例>

キー	: HKEY_LOCAL_MACHINE¥SYSTEM ¥CurrentControlSet¥Control¥CrashControl
名前	: DedicatedDumpFile
種類	: REG_SZ
データ	: D:¥dedicateddumpfile.sys

Dedicated Dump File については、以下に注意のうえ設定してください。

- レジストリーの編集には十分にご注意ください。
- 設定の反映には、再起動が必要です。
- 搭載メモリサイズ+400MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
ただし、搭載メモリサイズが 4TB を超える場合は、搭載メモリサイズ+257(MB) + (搭載メモリサイズ(TB) × 1024) / 32 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。例えば、搭載メモリサイズが 5TB の場合、5TB (5,242,880MB) + 257MB + (5 × 1024) / 32 で 5,243,297MB となります。
- ダイナミックボリュームに Dedicated Dump File を設定できません。
- Dedicated Dump File はメモリダンプの採取のみに使用され、仮想メモリとして使用されません。
システム全体で十分な仮想メモリを確保できるようページングファイルを設定してください。

システムパーティションのサイズ

Windowsをインストールするパーティションのサイズは、次の式から計算できます。

(OS のサイズ) + (ページングファイルのサイズ) + (ダンプファイルのサイズ)
+ (アプリケーションのサイズ)

【デスクトップ エクスペリエンスの場合】

OS のサイズ	= 16,700MB
ページングファイルのサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ + 400MB (搭載メモリサイズが 4TB 以下) = 搭載メモリサイズ + 257(MB)+(搭載メモリ サイズ(TB)× 1024) / 32
ダンプファイルのサイズ	= 搭載メモリサイズ + 400MB (搭載メモリサイズが 4TB 以下) = 搭載メモリサイズ + 257(MB)+(搭載メモリ サイズ(TB)× 1024) / 32 (搭載メモリサイズが 4TB を超えるとき)
アプリケーションのサイズ	= 任意

【Server Coreの場合】

OS のサイズ	= 9,500MB
ページングファイルのサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ + 400MB (搭載メモリサイズが 4TB 以下) = 搭載メモリサイズ + 257(MB)+(搭載メモリ サイズ(TB)× 1024) / 32
ダンプファイルのサイズ	= 搭載メモリサイズ + 400MB (搭載メモリサイズが 4TB 以下) = 搭載メモリサイズ + 257(MB)+(搭載メモリ サイズ(TB)× 1024) / 32 (搭載メモリサイズが 4TB を超えるとき)
アプリケーションのサイズ	= 任意

たとえば、搭載メモリサイズが8GB(8,192MB)、アプリケーションのサイズが100MBのとき、パーティションのサイズは、

$$16,700\text{MB} + (8,192\text{MB} + 400\text{MB}) + (8,192\text{MB} + 400\text{MB}) + 100\text{MB} \\ = 33,984 \text{ MB}$$

となります。

また、搭載メモリサイズが5TB (5,242,880MB)、アプリケーションのサイズが100MBのとき、パーティションのサイズは、

$$16,700\text{MB} + (5,242,880\text{MB} + 257\text{MB} + ((5 \times 1024) / 32)) + (5,242,880\text{MB} + 257\text{MB} + ((5 \times 1024) / 32)) + 100\text{MB} \\ = 10,503,394 \text{ MB}$$

となります。

上記の計算方法から算出したサイズは、Windowsのインストールに必要な最小限のサイズです。安定した運用のため、パーティションには余裕を持たせてインストールしてください。

以下のサイズを推奨します。

デスクトップ エクスペリエンス

- Standard、Datacenter	: 32,768MB (32GB) 以上
- Essentials	: 61,440MB (60GB) 以上
- Server Core	: 32,768MB (32GB) 以上
※1GB = 1,024MB	



- Windows Server 2025 では、システムパーティションの後ろに回復パーティションが作成されます。システムパーティションの後ろに未割り当ての領域がないため、システムパーティションは拡張できません。余裕を持ったパーティションサイズで Windows をインストールしてください。
- 上記ページングファイルのサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。Windows パーティションには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できないときがあるため、システム全体で十分なページングファイルを設定してください。
- 搭載メモリサイズやデバッグ情報の書き込み（メモリダンプ種別）に関係なく、ダンプファイルサイズの最大は「搭載メモリサイズ + 400MB（搭載メモリサイズが 4TB を超える場合は、搭載メモリサイズ + 257(MB) + (搭載メモリサイズ(TB) × 1024) / 32）」です。
- その他のアプリケーションなどをインストールするときは、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

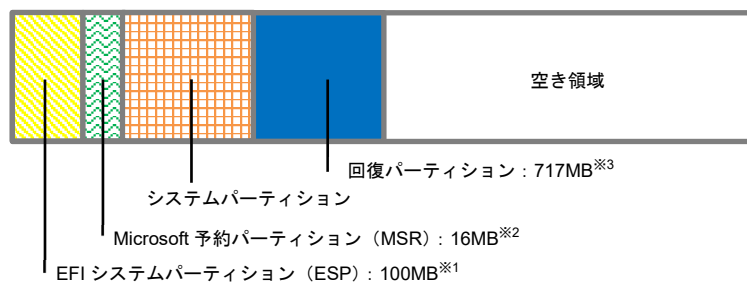
Windowsをインストールするパーティションのサイズが推奨サイズより小さい場合は、パーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。

新規インストールの場合

新規にパーティションを作成するとき、Windows OS がハードディスクドライブに次の3つのパーティションを作成します。

- EFI システムパーティション (ESP) : 100MB ※¹
- Microsoft 予約パーティション (MSR) : 16MB ※²
- 回復パーティション : 717MB ※³

たとえば、パーティションサイズを 61,440MB (60GB) を指定したとき、使用可能な領域は
 $61,440\text{MB} - (100\text{MB} + 16\text{MB} + 717\text{MB}) = 60,607\text{MB}$
 となります。



※¹ ハードディスクドライブの種類によって 300MB で作成されることがあります。

※² [ディスクの管理] には表示されません。

※³ パーティションサイズは、使用する OS インストールメディアによって異なります。
 バックアップ DVD-ROM でインストールした場合は、717MB で作成されます。

Windows Serve 2025 のサポート

Windows Server 2025 のサポートに関する詳細情報は、下記を参照してください。

Windows Server 2025 サポート情報

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109853>

Windows Server 2025 Hyper-V のサポート

Windows Server 2025 Hyper-Vのサポートに関する詳細情報は、下記を参照してください。

Windows Server 2025 Hyper-V サポートページ

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109865>

BitLocker の利用

BitLocker を使う場合、下記の点に注意してください。

- 回復キーは、BitLocker を使用するサーバー以外の安全な場所に保管してください。



回復キーがない場合、OS を起動させることができなくなり、BitLocker で暗号化したパーティションの内容を二度と参照できなくなります。回復キーは次のような作業を実施した後、OS 起動時に必要になる場合があります。

- マザーボードの交換
- BIOS の設定変更
- TPM の初期化 ※

※ ご利用の装置によりサポートしていない場合もあります。ハードウェア関連のドキュメントをご確認ください。

- BitLockerで暗号化したパーティションにOSを再インストールする場合、あらかじめBitLockerで暗号化したパーティションを削除してください。

Windows Server 2025 NIC チーミングのサポート

従来、ネットワークインターフェースカード(NIC)ベンダーにて提供されていたNIC チーミング機能は、Windows Server 2025 に標準搭載しています。

Windows Server 2025 では、本機能を、“負荷分散とフェールオーバー(LBFO)”とも呼びます。

「1 章(6. Windows Server 2025 NIC チーミング(LBFO)の設定)」を参照し、必要に応じて設定してください。

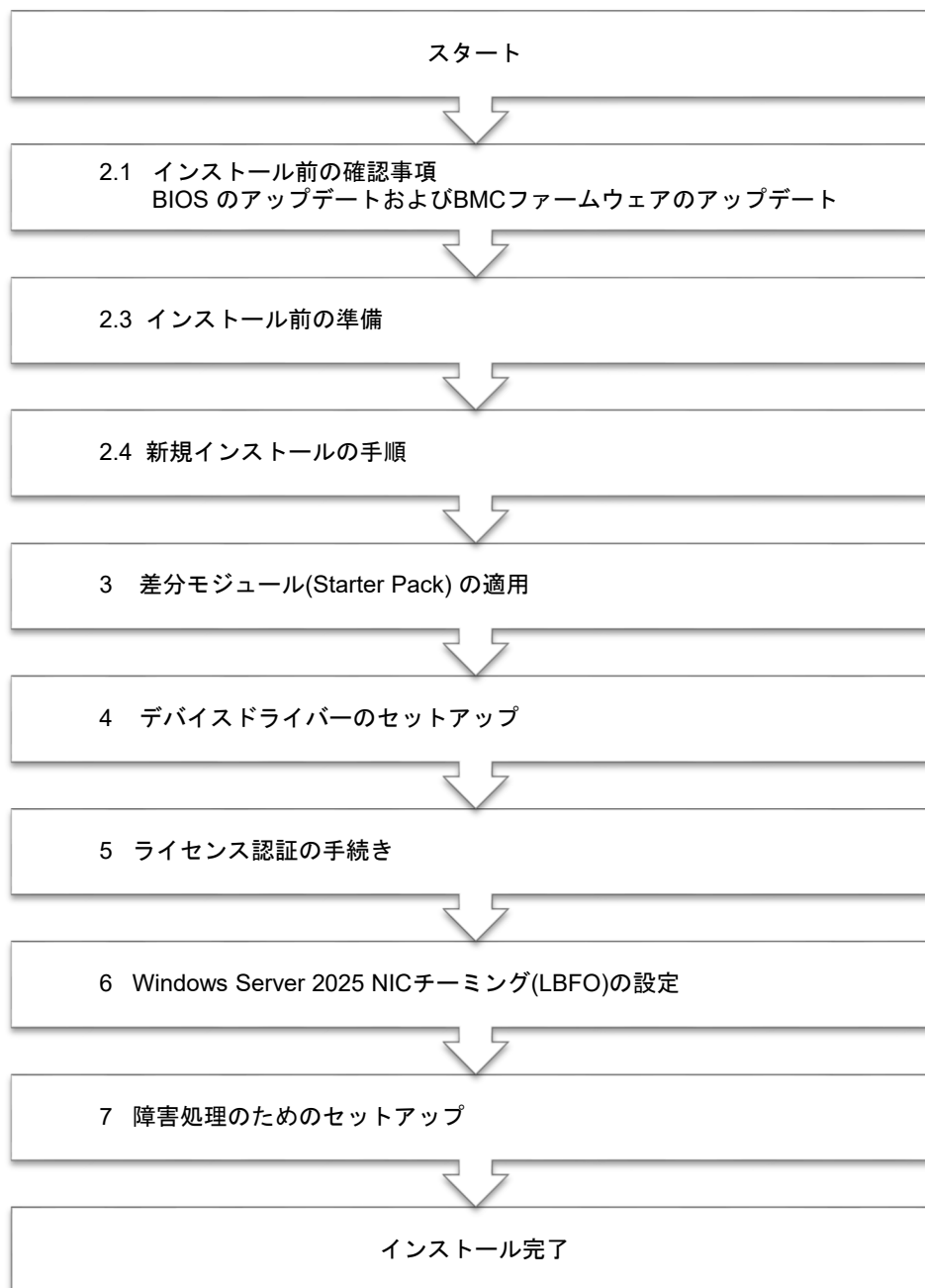
Windows Server Essentials

Windows Server 2025 Essentials をインストールする場合の Windows のセットアップ画面や OS インストール後の OS 表記が「Windows Server 2025 Standard」と表示されます。(Windows Server 2025 Essentials とは表示されません。)本表示は OS の仕様となります。

Windows Update の適用

セットアップ完了後、必要に応じて Windows Update を適用して、システムを最新の状態に更新してください。

2.2 インストールの流れ



セットアップ完了後、必要に応じて Windows Update を適用して、システムを最新の状態に更新してください。

OS インストール完了後、各種アプリケーションのインストールが必要な場合はそれぞれのインストレーションガイド(手順書)などを参照し、インストールを行ってください。

2.3 インストール前の準備

Windows Server 2025 のインストールを開始する前に、BIOS の設定やハードディスクの環境(ディスクアレイのコンフィグレーション情報など)を、製品マニュアル(ユーザーズガイドなど)を参照のうえ、確認してください。最新の製品マニュアルは、NEC コーポレートサイト(<https://jpn.nec.com/>)からダウンロードできます。

2.3.1 インストールに必要なもの

作業を始める前に、セットアップで必要なものを用意します。

事前に準備が必要なもの

- ☐ **OS インストールメディア** ※ 以下のいずれかのご購入が別途必要です。
 - 弊社製 OS インストールメディア (以降、「バックアップ DVD-ROM」と呼ぶ)
 - Microsoft 社製 OS インストールメディア (以降、「Windows Server 2025 DVD-ROM」と呼ぶ)
- ☐ **Windows Server 2025 対応 差分モジュール** (以降、「Starter Pack」と呼ぶ)

差分モジュール名	WS2025.10-001.0x.zip
※ x には数字が入ります。最新のモジュールを適用してください。	



Starter Pack は、「1 章(1.7 差分モジュール(Starter Pack) のダウンロード)」を参照してください。Starter Pack を DVD などにコピーする場合は、必要なメディアをご用意ください。



Windows Server 2025 をインストールした後に、EXPRESSBUILDER や弊社 Web サイトで公開している Windows Server 2022 や Windows Server 2019 向けなどの Starter Pack を適用しないでください。Windows Server 2022 向けなどの Starter Pack は、Windows Server 2025 ではご使用になれません。
必ず、ご購入された装置に対応した、Windows Server 2025 向けの Starter Pack をご使用ください。

- ☐ **Windows Server 2025 インストール補足説明書** (本書)

2.4 新規インストールの手順

Windows Server 2025 を新規でインストールする手順を記載します。

インストール済みの Windows は削除されますので、ご注意ください。



- セットアップ前に、「1 章 (2.1 インストール前の確認事項)」を確認してください。
 - 使用する OS インストールメディアによっては、Windows のセットアップ画面の一部が英語で表示される場合があります。
- 適宜読み替えて、Windows をインストールしてください。

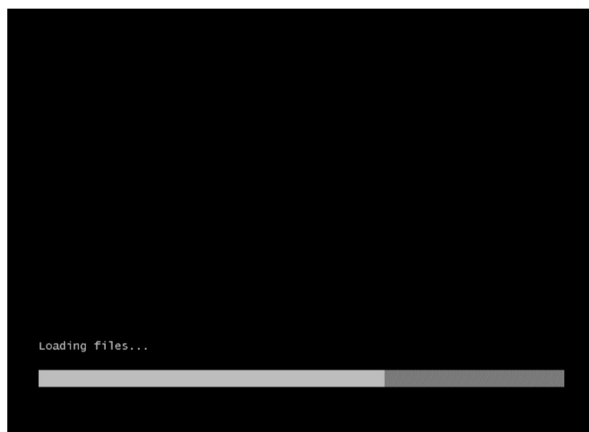
1. ディスプレイ、本機の順に電源を ON にします。OS インストールメディアをセットしてください。

2. OS インストールメディア から起動します。

画面の上部左側に「Press any key to boot from CD or DVD...」が数秒表示されます。

当該メッセージが表示されましたら、直ちに(2 秒以内)<Enter>キーを押して、メディアから起動させてください。

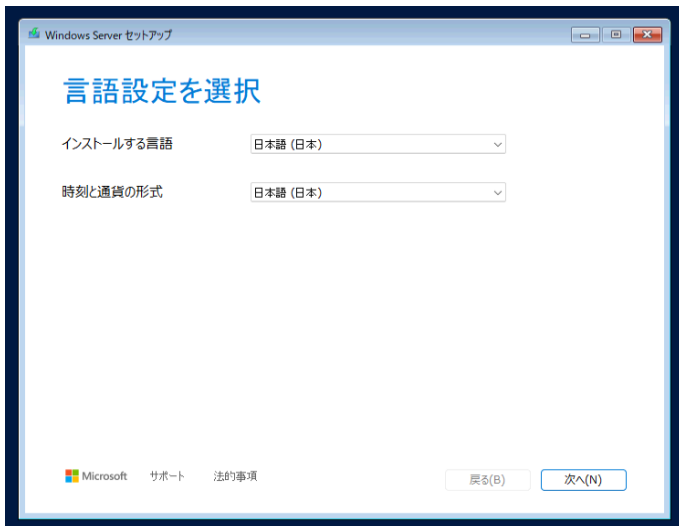
ブートが進むと次の画面が現れます。



Windows セットアップ画面（次の手順の画面）が表示されなかった場合は、<Enter>キーが正しく押されていません。

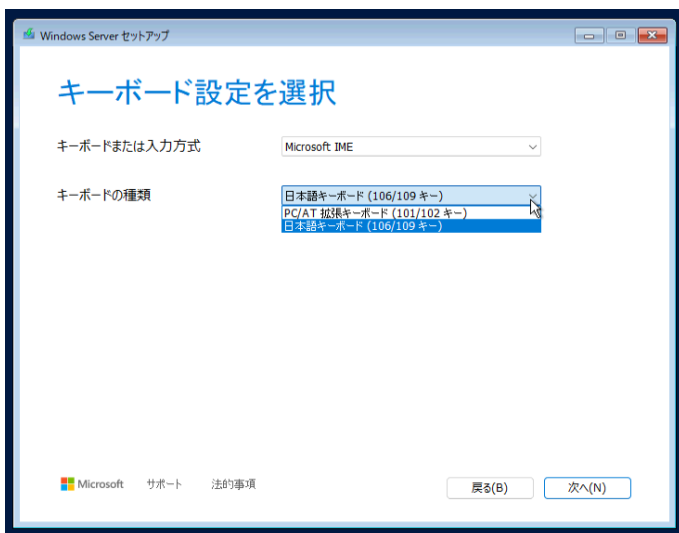
本機の電源を ON し直した後、手順 2 からリトライしてください。

3. [次へ] をクリックします。



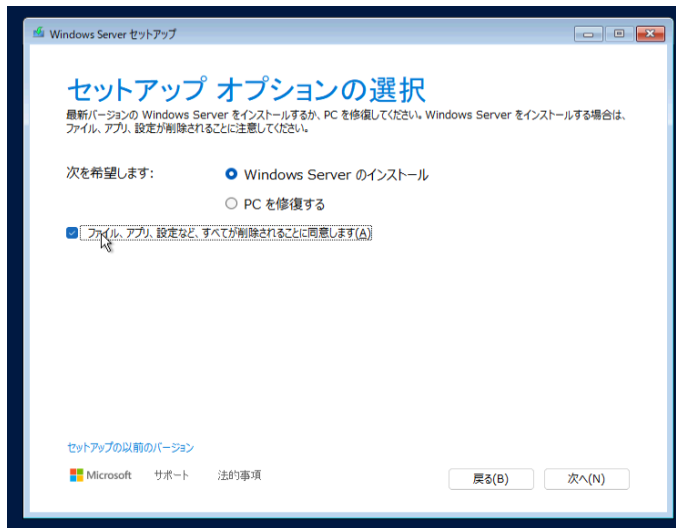
4. キーボード設定を次の内容に設定し、[次へ]をクリックします。

キーボードまたは入力方式	Microsoft IME
キーボードの種類	日本語キーボード(106/109 キー)

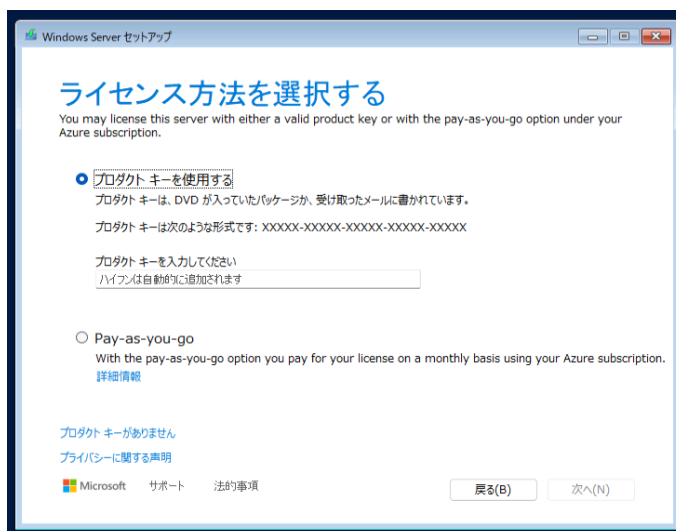


日本語キーボードを使用する場合、「キーボードの種類」は必ず「日本語キーボード (106/109 キー)」を選択してください。初期値で OS をインストールすると英語のキーボード配列に設定され、意図しない文字が入力されることがあります。パスワードに意図しない文字列が入力され、サインインできないなどの影響もあるため、ご注意ください。

5. [Windows Server のインストール]を選択し、
[ファイル、アプリ、設定など、すべてが削除されることに同意します]にチェックを入れ、
[次へ]をクリックします。

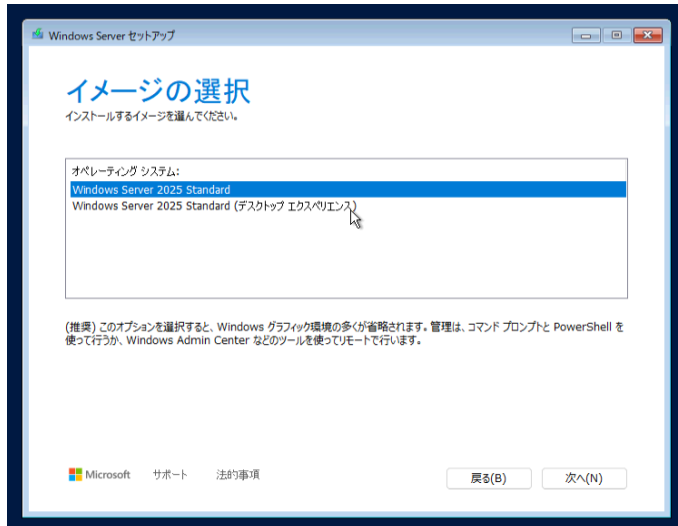


6. プロダクトキーの入力画面が表示されたら、プロダクトキーを入力し[次へ]をクリックします。



バックアップ DVD-ROM をご使用の場合は、本画面は表示されません。

7. インストールするオペレーティングシステムを選択し、[次へ]をクリックします。



画面の内容は、ご使用の OS インストールメディアによって異なります。



説明を読み、インストールオプションを選択してください。

Server Core の場合 ※1

- ☐ Windows Server 2025 Standard
- ☐ Windows Server 2025 Datacenter

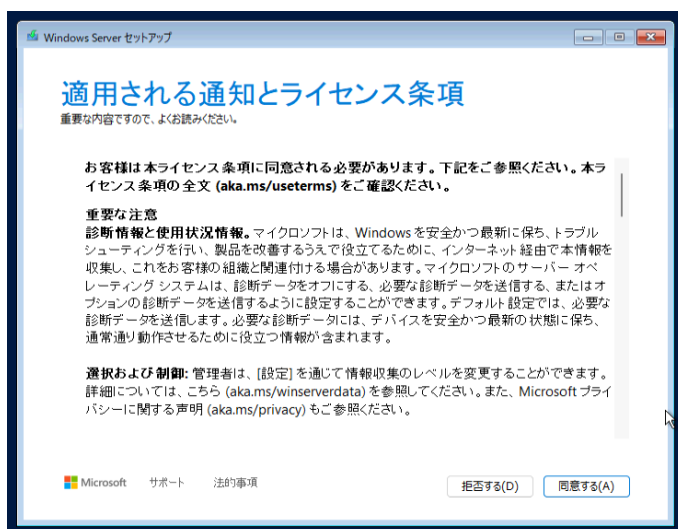
デスクトップ エクスペリエンスの場合

- ☐ Windows Server 2025 Standard (デスクトップ エクスペリエンス)
- ☐ Windows Server 2025 Datacenter (デスクトップ エクスペリエンス)
- ☐ Windows Server 2025 Essentials ※2

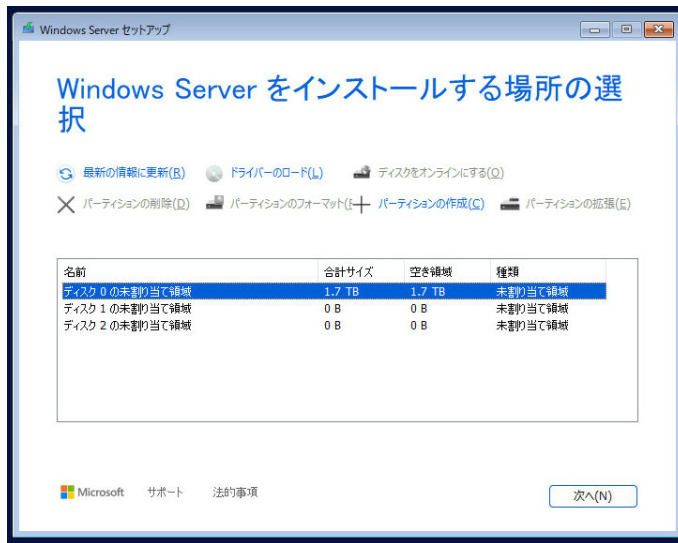
※1 インストールオプションに「Server Core」の名称は表示されません。

※2 Windows Server 2025 Essentials バックアップ DVD-ROM をご使用の場合「Windows Server 2025 Standard (デスクトップ エクスペリエンス)」を選択してください。「Essentials」とは表示されません。

8. ライセンス条項の内容を確認します。
同意する場合は、[同意する]をクリックします。



9. 「Windows Server をインストールする場所の選択」という画面が表示されます。
 [パーティションの作成]をクリックします。
 入力ボックスにパーティションのサイズを入力し、[適用] をクリックします。



パーティションを作成および削除するときに確認メッセージは表示されません。
 パーティションを操作するときは十分ご注意ください。



Windows のインストールを開始後、システムパーティションの後ろに回復パーティションが自動的に作成されます。システムパーティションの後ろに未割り当ての領域がないため、システムパーティションは拡張できません。
 余裕を持ったパーティションサイズで Windows をインストールしてください。



新規でパーティションを作成する場合、ハードディスクの先頭に、次の 2 つのパーティションが作成されます。

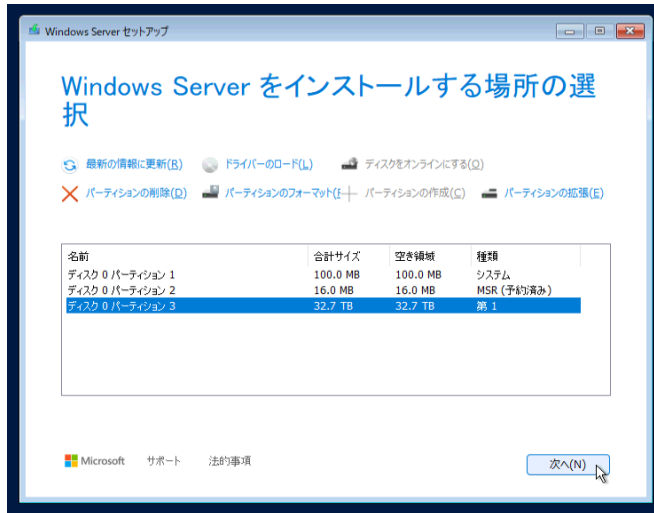
- EFI システムパーティション (ESP)
- Microsoft 予約パーティション (MSR)

10. 手順 9 で作成したパーティションを選択し、[フォーマット]をクリックします。



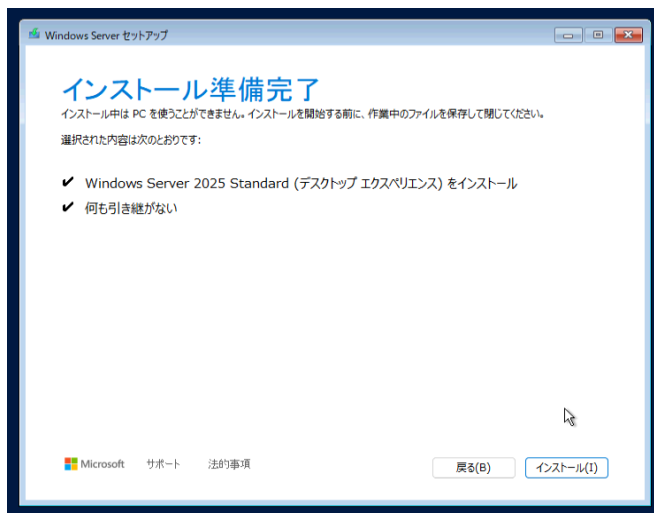
[フォーマット] をクリックすると、パーティション内のデータはクリアされます。
 フォーマットを開始する確認メッセージは表示されないため、フォーマットするパーティションの選択には十分ご注意ください。

11. 作成したパーティションを選択し、[次へ]をクリックします。

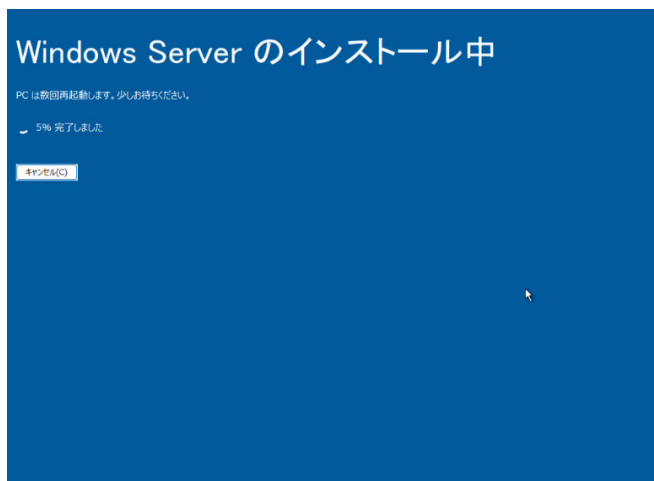


空き領域 0B の未割当領域が 2 つ表示されますが、仮想デバイスのため OS インストール先に選択できません。

次のメッセージが表示されたら、[インストール]をクリックします。



Windows のインストールが始まります。



Windows Server 2025 のインストール後、自動的に再起動します。



再起動後、引き続き Windows のセットアップを進めます。

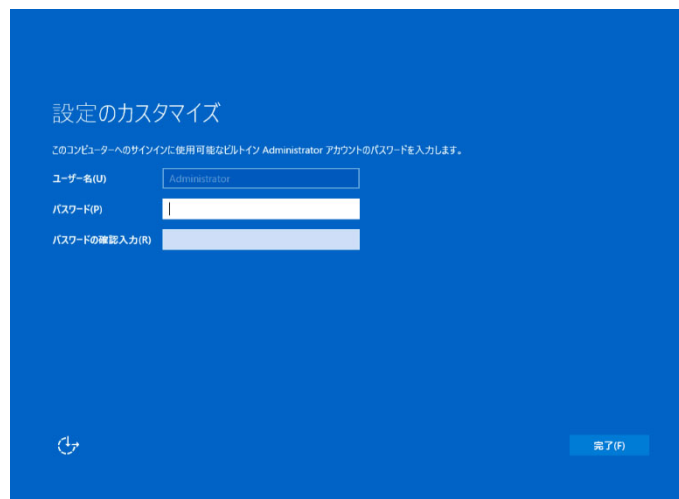
12. 手順 7 で選択したオペレーティングシステムに応じて、設定します。

● デスクトップ エクスペリエンス

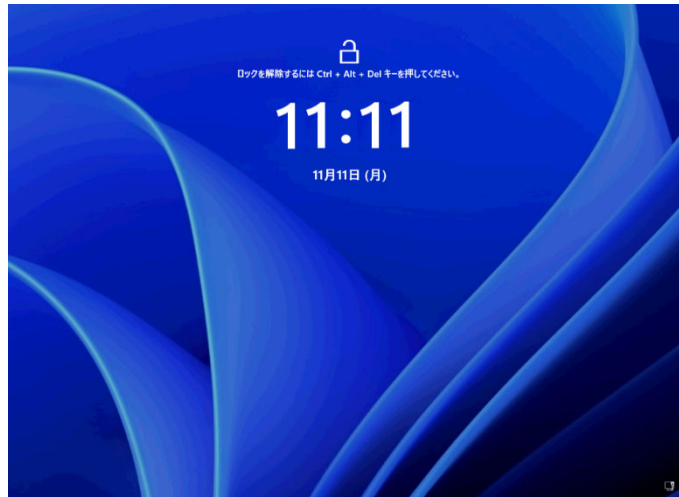


Microsoft 社製 OS インストールメディアをご使用の場合は、英語配列のキーボードとして認識されていることがあります。パスワードを入力後、パスワード表示ボタンをクリックし、意図したパスワードが入力できたことを確認してください。

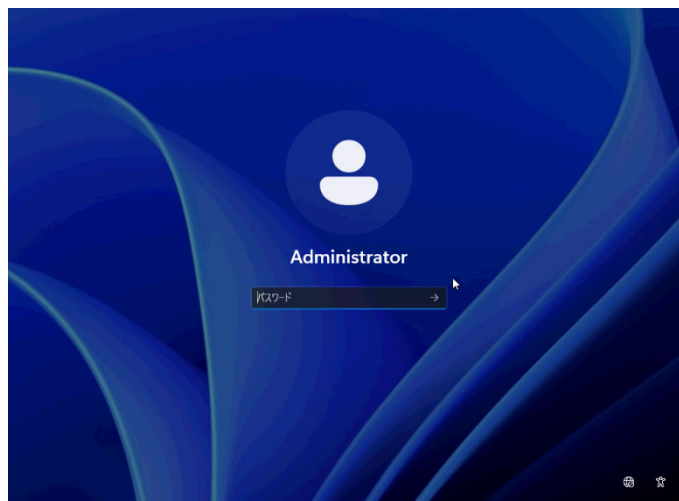
パスワードを入力し、[完了]をクリックします。



<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押し、ロックを解除します。



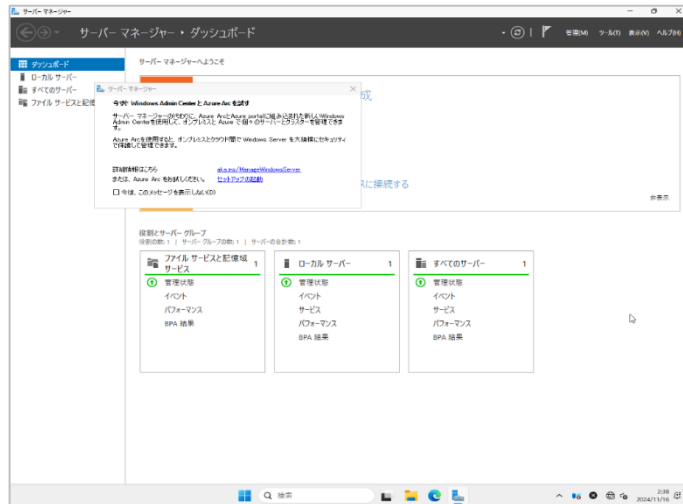
パスワードを入力し、<Enter>キーを押します。



内容を確認し、[同意]をクリックします。



Windows Server 2025 が起動します。



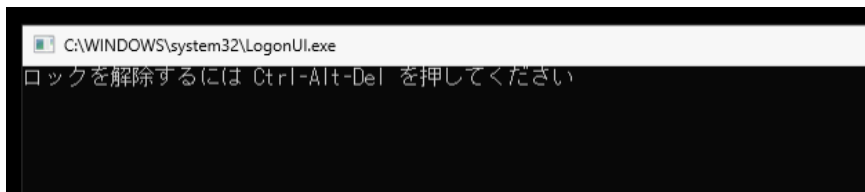
● Server Core



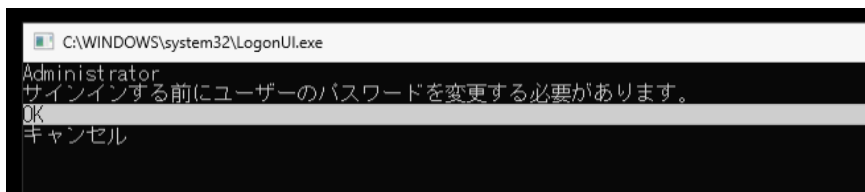
Microsoft 社製 OS インストールメディアをご使用の場合は、英語配列のキーボードとして認識されていることがあります。いったんパスワードは数字/英大文字/英小文字のみで設定してください。

記号を含むパスワードを設定するときは、日本語配列のキーボードとして認識されたことを確認した後にパスワードを変更してください。

<Ctrl> + <Alt> + <Delete>キーを押し、ロックを解除します。



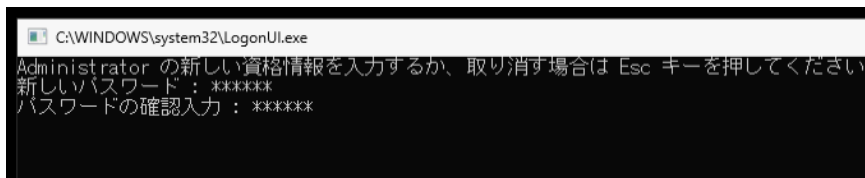
パスワード変更のため、[OK] を選択し、<Enter>キーを押します。



「新しいパスワード」欄に、新しいパスワードを入力します。

<Tab>キーを押して、「パスワードの確認入力」欄に移動します。

再度新しいパスワードを入力し、<Enter>キーを押します。



パスワード変更のメッセージ表示後、[OK] を選択し<Enter>キーを押します。



診断データの設定を確認します。設定を入力し、<Enter>キーを押します。



13. Microsoft 社製 OS インストールメディアをご使用の場合は、キーボード設定を確認します。

押したキーと入力される文字が異なる場合は、日本語配列のキーボードとして認識されていません。

その場合は、いったんシステムを再起動してください。

再起動後、日本語配列のキーボードとして認識されます。

押したキーの文字が正しく入力できることを確認してください。

- 例) ・ <@>を押すと他の記号が入力される。
・ <Shift>キーを押しながら <2> を押すと「@」が入力される。
・ <Shift>キーを押しながら <7> を押すと「&」が入力される。

14. 「1 章 (3. 差分モジュール(Starter Pack) の適用)」を参照し、Starter Pack を適用します。
15. 「1 章 (4. デバイスドライバーのセットアップ)」を参照し、ドライバーのインストールと詳細設定をします。
16. 「1 章 (5. ライセンス認証の手続き)」を参照し、ライセンス認証済みかを確認します。
17. 「1 章 (6. Windows Server 2025 NIC チーミング (LBFO) の設定)」を参照し、必要に応じてセットアップします。
18. 「1 章 (7. 障害処理のためのセットアップ)」を参照し、セットアップをします。

OS インストール完了後、各種アプリケーションのインストールが必要な場合はそれぞれのインストレーションガイド(手順書)などを参照し、インストールを行ってください。

以上で、セットアップは完了です。

3. 差分モジュール(Starter Pack)の適用

Starter Pack には本製品向けにカスタマイズされたドライバーなどが含まれています。

システム運用前に、対象モデル専用の Windows Server 2025 対応 差分モジュール(Starter Pack)を適用してください。対象モデル以外では使用できません。

Starter Pack をダウンロードしていない場合は、「1 章 (1.6 差分モジュール(Starter Pack)のダウンロード)」を参照してください。



- 次の場合も必ず「Starter Pack」を適用してください。
 - － マザーボードを交換した場合
(マザーボード交換後に再起動を促すダイアログボックスが表示された場合は、メッセージの指示に従って再起動し、Starter Pack を適用してください)
 - － 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- 内蔵オプションの取り付け後に Starter Pack の適用が必要になることがあります。
詳細は、「1 章 (4.デバイスドライバーのセットアップ)」を参照してください。



Starter Pack を適用すると、メモリダンプ(デバッグ情報)の設定を「カーネルメモリダンプ」に変更します。「カーネルメモリダンプ」以外を設定するときは、Starter Pack 適用後に設定を変更してください。
設定方法の詳細は、「1 章 (7.1 メモリダンプ(デバッグ情報)の設定)」を参照してください。

1. 本機にインストール済みの Windows へ、Administrator 権限のあるアカウントで、サインインします。
Starter Pack を DVD-ROM にコピーして使用する場合は、光ディスクドライブにセットします。
2. **cmd.exe** を実行してコマンドプロンプトを起動し、以下を入力し<Enter>キーを押します。

<ドライブレター>:¥<展開先>¥winnt¥bin¥pkgsetup.vbs



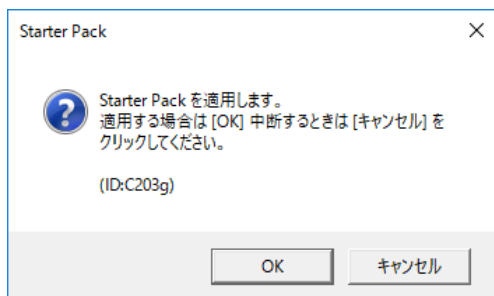
このとき指定するパスに、2 バイト文字や空白文字(スペース)を含まないようにしてください。

例えば D ドライブの temp フォルダーに Starter Pack がある場合

「D:¥temp¥winnt¥bin¥pkgsetup.vbs」と入力し、<Enter>キーを押します。

手順 3 の確認画面が表示されるまで、しばらくお待ちください(1~3 分程度)。

3. 次の確認画面で、[OK]をクリックします。

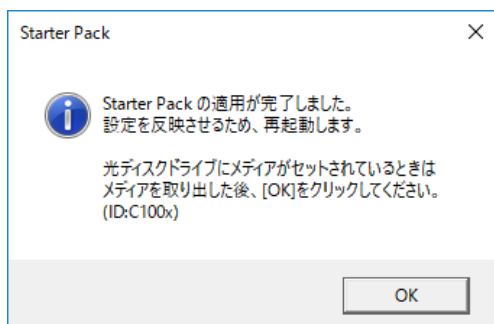


適用が完了するまで、しばらくお待ちください。(2~5 分程度)



Starter Pack の適用中に画面が一瞬暗くなったり、画面の解像度に変化する場合がありますが故障ではありません。

4. [OK]をクリックし、システムを再起動します。



以上で、Starter Pack の適用は完了です。

4. デバイスドライバーのセットアップ

必要に応じて各種ドライバーのインストールとセットアップを行います。

ここで記載されていないドライバーのインストールやセットアップについては、ドライバーに添付の説明書を参照してください。

4.1 LAN ドライバーのインストール

4.1.1 LAN ドライバーについて

「Starter Pack」を適用することで LAN ドライバーがインストールされます。



Wake On LAN は標準ネットワークアダプターのみサポートです。

Wake On LAN を使用する場合は、「1 章(4.2 LAN ドライバーのセットアップ)」 – 「4.2.3 Wake On LAN の設定」を参照してください。



- LAN ドライバーに関する操作は、装置に接続されたコンソールから管理者 (Administrator など) 権限でサインインした状態で実施してください。OS のリモートデスクトップ機能、または、その他の遠隔操作ツールを使用しての作業はサポートしていません。
- IP アドレスを設定する場合、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れているとき、チェックを付けてから IP アドレスの設定をしてください。

4.1.2 オプションの LAN ボード

対応しているオプションの LAN ボードは以下です。

N8104-157A/202/203

オプションの LAN ボードを追加した場合、OS のプラグアンドプレイ機能が動作して LAN ドライバーは自動的にインストールされます。

ただし、N8104-157A を搭載せずに「Starter Pack」を適用した場合、N8104-157A を増設しても LAN ドライバーは自動的にインストールされません。

該当する場合は、以下の手順で N8104-157A に LAN ドライバーをインストールしてください。

N8104-157A の LAN ドライバーインストール手順

1. [デバイスマネージャー]を起動します。
2. [ネットワークアダプター]を展開し、Intel(R) Ethernet Controller X550 を右クリックし、
[ドライバーの更新]を選択します。
[ドライバーの更新 - Intel(R) Ethernet Controller X550] が表示されます。
3. [コンピューターを参照してドライバーを検索]を選択します。
4. [参照]をクリックします。
[フォルダーの参照]が表示されます。

5. 以下の「WS2025」フォルダを指定し、[OK]をクリックします。
<ドライブレター>:\<展開先>\winnt\drivers\02_network\1_ag_12\intel\i294\PROXGB\Winx64\WS2025
 6. [ドライバーの更新 - Intel(R) Ethernet Controller X550]に戻り、[次へ]をクリックします。
 7. 「ドライバーが正常に更新されました」のメッセージが表示されたら、[閉じる]をクリックします。
 8. N8104-157A の全ポートに対して、手順 2 ～ 手順 7 を行います。
- 以上で完了です。

4.1.3 ネットワークアダプター名

LAN ドライバー適用後、デバイスマネージャーで表示されるネットワークアダプター名は以下です。

- 標準ネットワークアダプター

Intel(R) I210 Gigabit Network Connection #xx (※1)

- オプション LAN ボード

[N8104-157A] Intel(R) Ethernet Controller X550 #xx (※1)

[N8104-202] Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T2 #xx (※1)

[N8104-203] Intel(R) Ethernet Server Adapter I350-T4 #xx (※1)

※1 同一名のネットワークアダプターがある場合は、xxの箇所に識別の番号が割り振られます。

4.2 LAN ドライバーのセットアップ

4.2.1 リンク速度の設定

ネットワークアダプターの転送速度とデュプレックスモードは、接続先のスイッチングハブと同じ設定にする必要があります。以下の手順を参照し、転送速度とデュプレックスモードを設定してください。

1. [デバイスマネージャー]を起動します。
2. [ネットワークアダプター]を展開し、設定するネットワークアダプターをダブルクリックします。
ネットワークアダプターのプロパティが表示されます。
3. [詳細設定]タブを選択し、[速度とデュプレックス]をスイッチングハブの設定値と同じ値に設定します。
4. [OK]をクリックします。
5. システムを再起動します。

以上で完了です。

4.2.2 フロー制御 (Flow Control) の設定

フロー制御(Flow Control)は、受信バッファが枯渇しそうになった際に、接続先にポーズフレームを送信し、フレーム送金の一時的な停止を指示する機能です。また、ポーズフレームを受信した場合は、送信規制を行います。以下の手順を参照し、フロー制御(Flow Control)を設定してください。



ネットワークアダプターと接続先のフロー制御 (Flow Control) の設定が一致するように合わせてください。たとえば、ネットワークアダプターと接続先のフロー制御 (Flow Control) の設定が一致するように合わせてください。

また、フロー制御 (Flow Control) の初期値に関しては無効に設定されている場合があります。そのため、接続先のフロー制御 (Flow Control) が有効の場合は、ネットワークアダプター側も有効に設定してください。

1. [デバイスマネージャー]を起動します。
2. [ネットワークアダプター]を展開し、設定するネットワークアダプターをダブルクリックします。
ネットワークアダプターのプロパティが表示されます。
3. [詳細設定]タブを選択し、[Flow Control]または[フロー制御]をクリックして[値]を表示させます。
4. [値]の[▼]で設定を変更します。
5. [OK]をクリックします。
6. システムを再起動します。

以上で完了です。

4.2.3 Wake On LAN の設定

Wake On LAN を使用する場合は、手順に従って設定してください。

1. [デバイスマネージャー]を起動します。
2. [ネットワークアダプター]を展開し、設定するネットワークアダプターをダブルクリックしプロパティを表示します。
3. [詳細設定]タブを選択し、[PME をオンにする] の値を「オン」または「有効」に設定します。
4. [OK]をクリックし、再起動します。

以上で完了です。

4.3 グラフィックス アクセラレータ ドライバー

標準のグラフィックスアクセラレータ ドライバーは、Starter Pack を適用することで自動的にインストールされます。



有効なモード一覧に表示される各解像度のリフレッシュレートが、実際に設定される値とは異なります。(表示される値は 64 ヘルツだが、実際に設定される値は 60 ヘルツ)

ドライバーを個別にインストールするときは、次の手順に従ってください。

1. Starter Pack の以下のファイルを実行します。
<ドライブレター>:\<展開先>\winnt\drivers\03_graphics\1 aj_20\install.bat
2. システムを再起動します。

以上で完了です。

なおドライバーをアンインストールするときは、次の手順に従ってください。

1. コントロールパネルから「プログラムのアンインストール」を起動します。
2. プログラム一覧から「Windows Driver Package - ASPEED(ASTGRP) Display...」を選択し、実行してください。
3. システムを再起動します。

以上で完了です。

4.4 オプションのグラフィックスアクセラレータカードを使用する場合

オプションのグラフィックスアクセラレータカードを搭載している場合は、カードに添付されているグラフィックスアクセラレータのユーザーズガイドに記載されている手順に従ってドライバーをインストールしてください。

4.5 SAS コントローラー(N8103-199)を使用する場合

SAS コントローラー(N8103-199)を使用する場合、ドライバーが自動的にインストールされます。

4.6 オンボードの RAID コントローラーを使用する場合

オンボードの RAID コントローラーを使用する場合、ドライバーが自動的にインストールされます。

「Starter Pack」を適用することで、本製品向けにカスタマイズされたドライバーがインストールされます。

4.7 RAID コントローラー(N8103-225/232/233/234/235)を使用する場合

RAID コントローラー(N8103-225/232/233/234/235)を使用する場合、ドライバーが自動的にインストールされます。

「Starter Pack」を適用することで、本製品向けにカスタマイズされたドライバーがインストールされます。

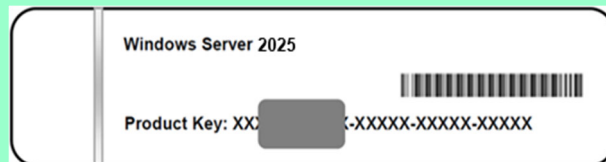
5. ライセンス認証の手続き

Windows Server 2025 を使用するにはライセンス認証が必要です。必ず認証の手続きを行ってください。
次の手順でライセンス認証済みかを確認します。



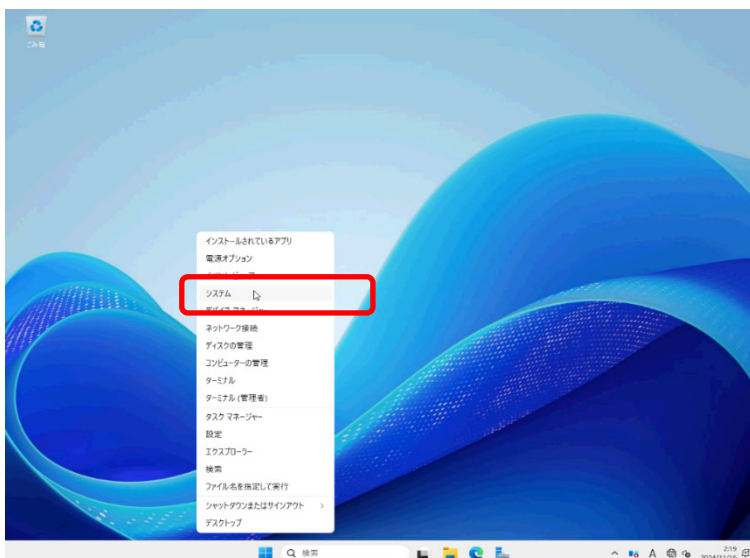
チェック

Windows Server 2025 のライセンス認証を行う際に使用するプロダクトキーは、COA (Certificate of Authenticity) ラベルに記載されたプロダクトキーと一致させる必要があります。Windows Server 2025 の COA ラベルは購入された OS インストールメディアのパッケージに貼付されています。

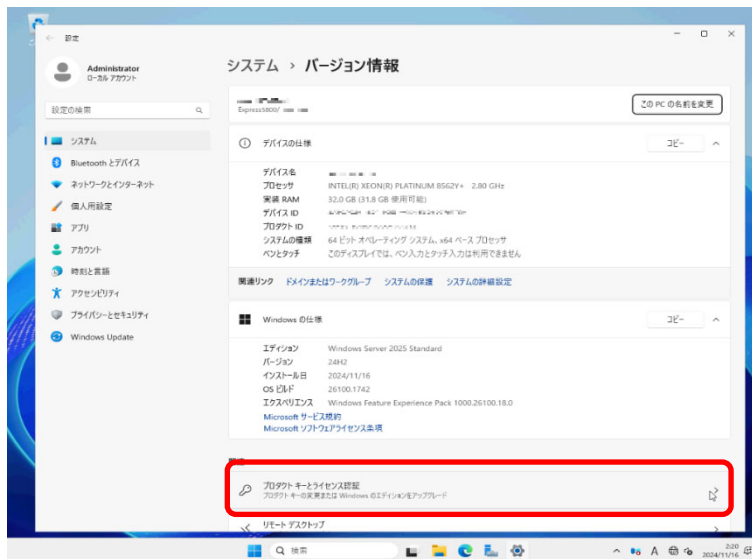


5.1 デスクトップ エクスペリエンスの場合

1. タスクバーの中央または左端の「スタート」を右クリックして、「システム」を選択します。

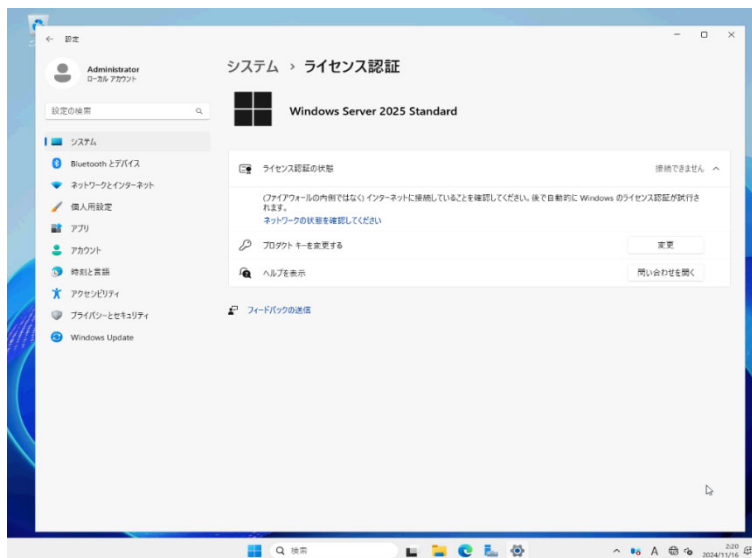


- バージョン情報が表示されたら[プロダクトキーの変更または Windows のエディションをアップグレード]をクリックします。



「ライセンス認証の状態」に、「Windows はアクティブ化されました」と表示されている場合は、以降の手順は不要です。

- ライセンス認証の手続きをします。

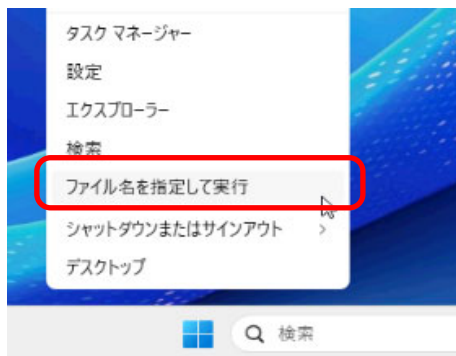


- ☐ インターネットに接続している場合
 - [プロダクトキーを変更する]の[変更]をクリックします。
 - 以降はメッセージに従って、ライセンス認証の手続きを完了してください。
- ☐ インターネットに接続していない場合
 - 手順 4 へ

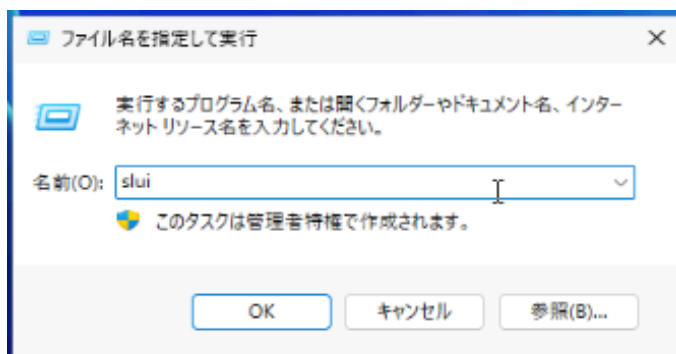
4. 電話でライセンス認証を行います。ご使用の OS インストールメディアの手順へ進んでください。

- ☐ バックアップ DVD-ROM → 手順 5 へ
- ☐ Windows Server 2025 DVD-ROM
 - ー プロダクトキーは入力済み → 手順 8 へ
 - ー プロダクトキーは入力していない → 手順 5 へ

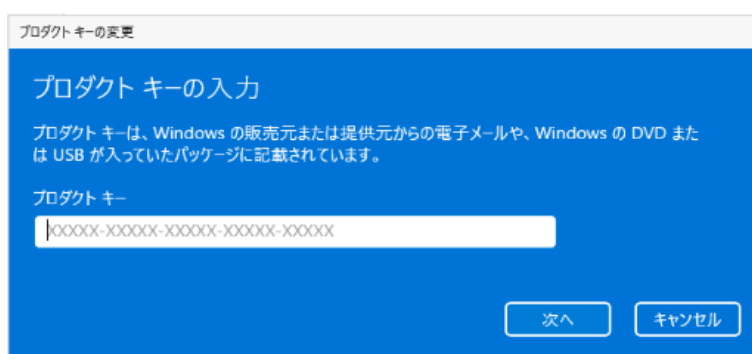
5. タスクバーの中央または左端の「スタート」 を右クリックして、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。




6. 「slui」と入力し、<Enter>キーを押します。



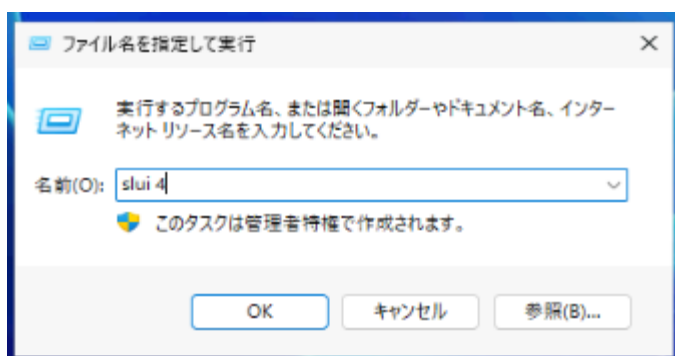
7. プロダクト キーの入れ替えを行います。次の画面でプロダクト キーを入力します。



8. タスクバーの中央または左端の「スタート 」を右クリックして、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。



9. 「slui 4」と入力し、<Enter>キーを押します。



10. 「電話でのライセンス認証」をクリックする。



11. 次の画面で「日本」を選択し、「次へ」をクリックします。

ライセンス認証を行うためのインストール ID を取得します。

12. マイクロソフト ライセンス認証窓口に電話します。
自動応答音声にしたがい、インストール ID を入力し、「確認 ID を入力」をクリックします。

13. 自動応答音声から案内される確認 ID を入力し、「Windows のライセンス認証」をクリックします。

14. 手続きが完了した旨のメッセージが表示されたら、「閉じる」をクリックします。

以上で完了です。

5.2 Server Core の場合

1. ライセンス認証の確認をします。

管理者権限でコマンドプロンプトを起動し、次を入力し<Enter>キーを押します。

```
C:¥Users¥administrator>slmgr -dli
```

「ライセンスの状態：ライセンスされています」と表示されたときは、ライセンス認証済みです。

以降の手続きは必要ありません。

ライセンス認証が完了していないときは、次へ進んでください。

2. プロダクトキーの入れ替えを行います。

バックアップ DVD-ROM を使用した場合

次のコマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

```
C:¥Users¥administrator>slmgr -ipk <COA ラベルのプロダクトキー>
```

Windows Server 2025 DVD-ROM を使用した場合

プロダクトキーの入れ替えは、必要ありません。

次へ進んでください。

3. ライセンス認証を行います。

インターネットに接続している場合

インターネット経由でライセンス認証を行います。

次のコマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

```
C:¥Users¥administrator>slmgr -ato
```

以上で完了です。

インターネットに接続していない場合

電話でライセンス認証を行います。

次のコマンドを入力し、<Enter>キーを押します。

```
C:¥Users¥administrator>slmgr -dti
```

ライセンス認証を行うためのインストール ID を取得します。

%systemroot%\¥system32¥sppui¥phone.inf を参照し、マイクロソフトライセンス認証窓口の電話番号を確認します。

マイクロソフトライセンス認証窓口で電話し、インストール ID を知らせます。

受け取った確認 ID を次のコマンドに入力して<Enter>キーを押します。

```
C:¥Users¥administrator>slmgr -atp <確認 ID>
```

以上で完了です。

6. Windows Server 2025 NIC チーミング(LBFO)の設定

ネットワークアダプターのチーミングの設定は、次のとおりです。

6.1 NIC チーミング設定ツールの起動

1. [サーバーマネージャー] を起動します。
2. [ローカルサーバー] を選択します。
3. プロパティから「NIC チーミング」の「有効」または「無効」をクリックします。

NIC チーミング設定ツールが起動します。



[ファイル名を指定して実行] から「lbfoadmin /server .」を入力し<Enter>キーを押すことにより、設定ツールを起動することもできます。

6.2 チームの作成

起動した NIC チーミング設定ツールからチームを作成します。

1. 「サーバー」セクションから設定するサーバー名を選択します。
1 台しかない場合は、自動的に選択されています。
2. 「チーム」セクションの「タスク」から[チームの新規作成]を選択し、チームの新規作成ウィンドウを起動します。
3. 「チーム名」に作成するチーム名を入力し、「メンバーアダプター」からチームに組み込むネットワークアダプターを選択します。
4. 「追加のプロパティ」をクリックします。
5. それぞれの内容について指定し、[OK] をクリックします。

■ チーミングモード

静的チーミング	NIC とスイッチ間で、スタティックリンクアグリゲーションを構成します。
スイッチに依存しない	スイッチの設定に依存せずに、NIC 側でチーミングを構成します。
LACP	NIC とスイッチ間で、ダイナミックリンクアグリゲーションを構成します。

■ 負荷分散モード

アドレスのハッシュ	IP アドレス、ポート番号を利用して負荷分散させます。
Hyper-V ポート	仮想マシンが使用する仮想スイッチのポートごとに負荷分散させます。
動的	<ul style="list-style-type: none">• 送信は、IP アドレス、ポート番号を利用して動的に負荷分散させます。• 受信は、「Hyper-V ポート」と同様の方法で負荷分散させます。

■ スタンバイアダプター

チーム内のアダプターからスタンバイにするアダプターを 1 つ選択します。
すべてアクティブにすることも可能です。

■ プライマリチームインターフェース

プライマリのチームインターフェースに、任意の VLAN ID を設定することができます。

6.3 チームの削除

起動した NIC チーミング設定ツールからチームを削除します。

1. 「サーバー」セクションから設定するサーバーを選択します。
1 台しかない場合は、自動的に選択されています。
2. 「チーム」セクションから、削除するチームを選択します。
3. 「チーム」セクションの「タスク」ボックスから「削除」を選択します。
4. 確認ウィンドウが表示されますので、「チームの削除」をクリックします。

6.4 注意・制限事項

- ゲスト OS 上での NIC チーミングは、本機の出荷時点ではサポートしておりません。
- Hyper-V 環境において、ホスト OS 上の仮想 NIC を使用したチーミングはサポートしておりません。
- チーミングを構成する各ネットワークアダプターと接続しているネットワークスイッチのポートで STP（スパニングツリー）が有効になっている場合、ネットワーク通信が阻害される可能性があります。該当ポートの STP を無効にするか、PortFast や EdgePort 等の設定を実施してください（接続先のネットワークスイッチの設定方法については、ネットワークスイッチのマニュアルを確認してください）。
- チーム内のすべての NIC は、ネットワークスイッチを介して同一サブネットに接続する必要があります。
- 異なる速度の NIC のチーミングはサポートしておりません。
- 異なるベンダーの NIC のチーミングはサポートしておりません。
- ネットワーク負荷分散（NLB）環境でチーミングを使用する場合は、NLB のクラスタ操作モードはマルチキャストモードを使用してください。
- チームを削除した際に以下のイベントログが出力されることがありますが、運用上、問題ありません。

レベル	エラー
ソース	Microsoft-Windows-NDIS
イベント ID	10317
タスクのカテゴリ	PnP
メッセージ	ミニポート Microsoft Network Adapter Multiplexor Driver、{XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX}、イベント Network Interface deleted while PNP Device still exists. Note that this event is provided for informational purpose and might not be an error always (Eg: In case of vSwitch which was recently un-installed or a LBFO team was removed) がありました

- Windows Server Failover Cluster 環境において、Active-Standby でチーミングを構成した場合、ハートビートの不通やフェールオーバーが発生する可能性があります。本事象を回避するために、チーム内にアクティブモードの NIC を複数構成して、アクティブモードの NIC が同時にすべて失われないようにチーミングを構成してください。
- Hyper-V 環境において、チーミングアダプターを仮想スイッチにバインドする構成は非推奨です。チーミングと仮想スイッチを組み合わせて使用する場合は、SET(Switch Embedded Teaming)を使用してください。
- NIC チーミングを使用する環境のホスト名は 15 文字以内にしてください。ホスト名が 16 文字以上の場合、NIC チーミングが正しく動作しません。
- チーミングアダプターで iSCSI 機能を利用することはできません。
- チーミングを構成可能な NIC の組み合わせとチームの最大ポート数については、各サーバモデルのシステム構成ガイドを参照してください。

最新情報は、

[Windows Server 2025 サポート情報] (<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140109853>) の技術情報をご確認ください。

7. 障害処理のためのセットアップ

問題が起きたとき、より早く、確実に修復できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしてください。

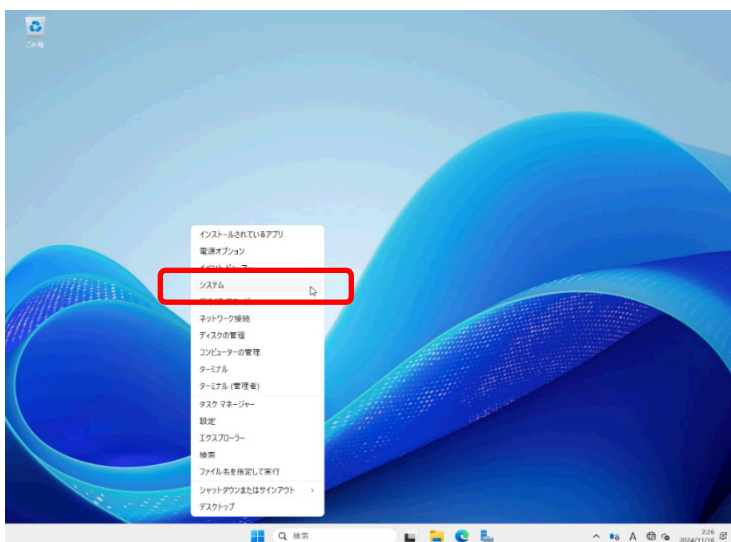
7.1 メモリダンプ（デバッグ情報）の設定

メモリダンプ（デバッグ情報）を採取するための設定です。

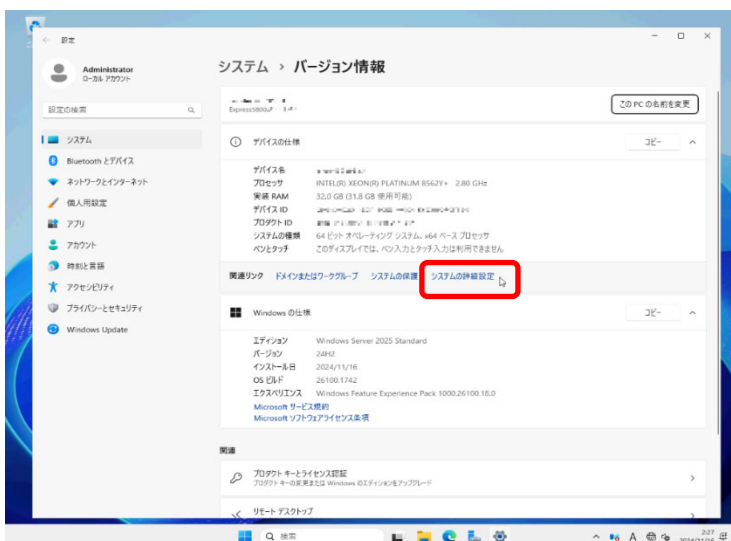


- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがあります。この場合、そのまま起動してください。リセットや再起動すると、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

1. タスクバーの中央または左端の「スタート」を右クリックして、「システム」を選択します。



2. バージョン情報が表示されたら「システムの詳細設定」をクリックします。

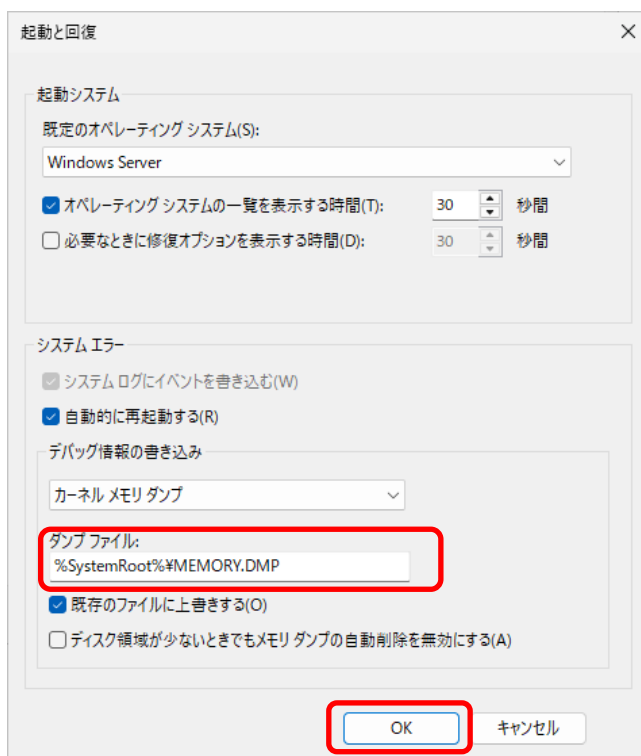


3. 「起動と回復」の「設定」をクリックします。



4. 「ダンプファイル」にダンプファイルのパスを入力し、「OK」をクリックします。

< 例) D ドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合 >



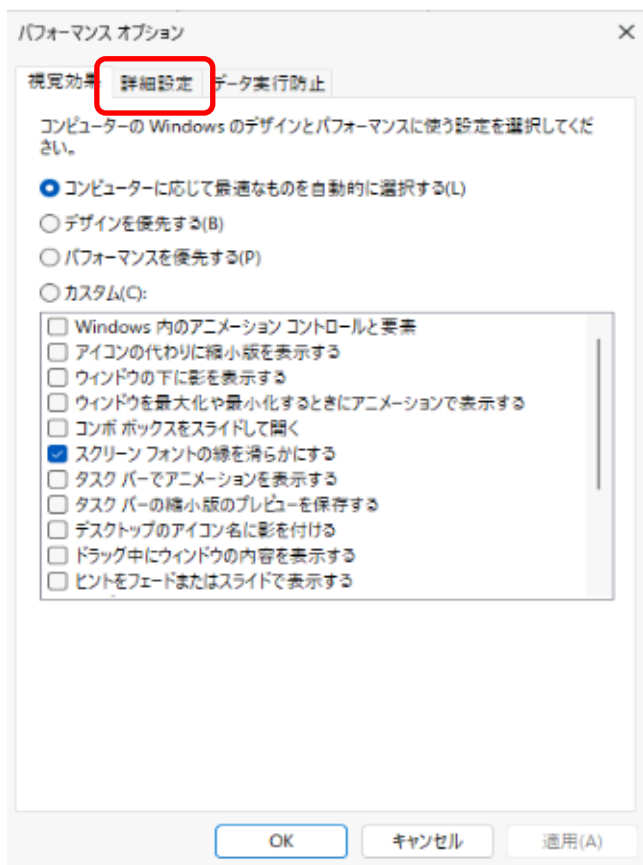
ダンプファイルは、以下に注意して設定してください。

- 「デバッグ情報の書き込み」は、「カーネルメモリダンプ」を指定することを推奨します。
- 搭載メモリサイズ+400MB（搭載メモリサイズが4TBを超える場合は、搭載メモリサイズ+257(MB) + (搭載メモリサイズ(TB) × 1024) / 32）以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリを増設すると、採取されるデバッグ情報（メモリダンプ）のサイズが変わります。増設時は、ダンプファイルの書き込み先の空き容量も確認してください。

5. [パフォーマンス] の [設定] をクリックします。



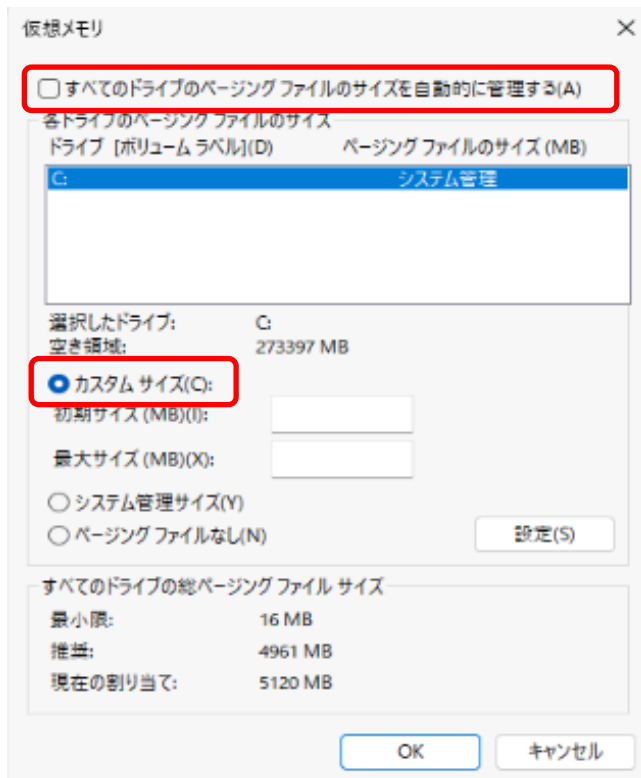
6. [詳細設定] タブをクリックします。



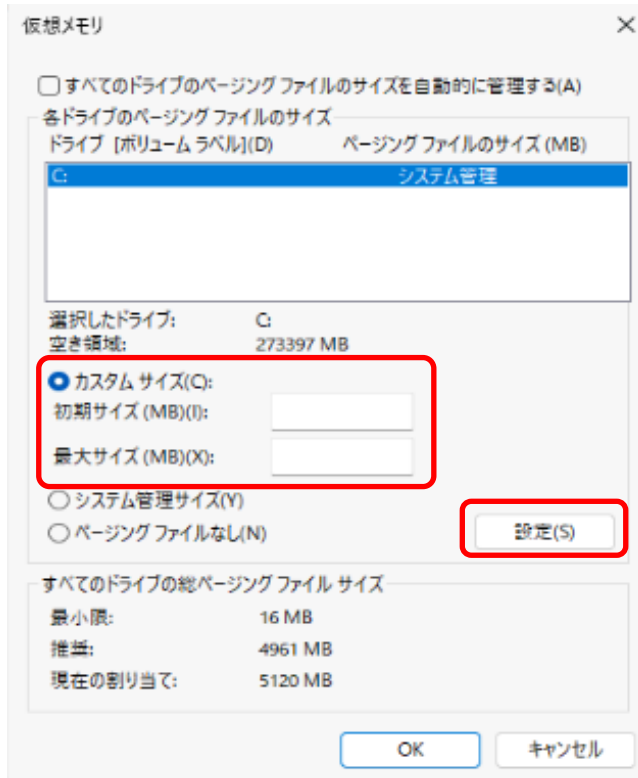
7. [仮想メモリ] の[変更] をクリックします。



8. [すべてのドライブのページングファイルのサイズを自動的に管理する] のチェックを外し、[カスタム サイズ] を選択します。



9. [各ドライブのページングファイルのサイズ] の [初期サイズ] を推奨値以上に、[最大サイズ] を初期サイズ以上に変更し、[設定] をクリックします。



ページングファイルは、以下に注意してください。

- ページングファイルは、デバッグ情報（ダンプファイル）採取のために利用されています。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズ（搭載メモリサイズ + 400MB（搭載メモリサイズが4TBを超える場合は、搭載メモリサイズ + 257(MB) + (搭載メモリサイズ(TB) × 1024) / 32) 以上）を持つページングファイルが必要です。
また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、「1章（2.1 インストール前の確認事項）」の「システムパーティションのサイズ」を参照してください。
- メモリを増設したときは、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。
- 2TBを超えるドライブへのページングファイル設定でエラーとなった場合は、[仮想メモリ] 画面、[パフォーマンスオプション] 画面を閉じた後、以下の方法で設定してください。

例) C ドライブに初期サイズ 4096MB、最大サイズ 8192MB のページングファイルを作成する場合。サイズを変更する場合は手順③の値を変更してください。

- ① 管理者として PowerShell を起動して以下のコマンドを実行します。

```
$cimInstance = Get-CimInstance -ClassName Win32_ComputerSystem
$cimInstance.AutomaticManagedPagefile = $false
$cimInstance | Set-CimInstance
(Get-WmiObject -Class Win32_PageFileSetting).Delete()
```
- ② Windows を再起動します。

- ③ 管理者として PowerShell を起動して以下のコマンドを実行します。
(紙幅の都合上、折り返されていますが 1 行のコマンドです。)

```
reg add  
"HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Session  
Manager\Memory Management" /v PagingFiles /t REG_MULTI_SZ /d  
"c:\pagefile.sys 4096 8192" /f
```

- ④ Windows を再起動します。

10. [OK] をクリックします

変更内容によっては Windows を再起動するようメッセージが表示されます。

メッセージに従って再起動してください。

以上で完了です。

7.2 ユーザーモードのプロセスダンプの取得方法

ユーザーモードプロセスダンプは、アプリケーションエラー発生時の情報を記録したファイルです。

アプリケーションエラーが発生したときは、エラーのポップアップを終了させずに、以下の方法でユーザーモードプロセスダンプを取得してください。

1. タスクバーの中央または左端の [スタート 

2. [プロセス 

名前	状態	0%	9%	0%	0%
		CPU	メモリ	ディスク	ネットワーク
アプリ (2)					
> Server Manager		0%	78.6 MB	0 MB/秒	0 Mbps
> タスク マネージャー		0.2%	39.9 MB	0 MB/秒	0 Mbps

3. ダンプを取得するプロセス名を右クリックして、[ダンプファイルの作成] をクリックします。
4. 次のフォルダーにダンプファイルが作成されます。

C:\Users¥(ユーザー名)¥AppData¥Local¥Temp



フォルダーが表示されないときは、エクスプローラーの[表示]から[隠しファイル]をチェックしてください。



手順 4 に記載のフォルダーより、ユーザーモードのプロセスダンプを取得してください。

本機の運用などにおいて、点検、保守、またはトラブルが起きたときの対処について説明します。

1. 障害情報の採取

本機が故障したとき、故障の箇所、原因について、情報を採取する方法を説明しています。故障が起きたときに参照してください。

2. トラブルシューティング

故障かな？と思ったときに参照してください。トラブルの原因とその対処について説明しています。

3. Windows システムの修復

Windows を修復させるための手順について説明しています。Windows が破損したときに参照してください。

1. 障害情報の採取

本機が故障したとき、次のような方法で障害情報を採取することができます。

以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から障害採取の依頼があったときのみ採取してください。 採取の方法は、デスクトップ エクスペリエンス の環境で説明しています。



故障が起きた後に再起動すると、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。途中でリセットすると、障害情報が正しく保存できないことがあります。

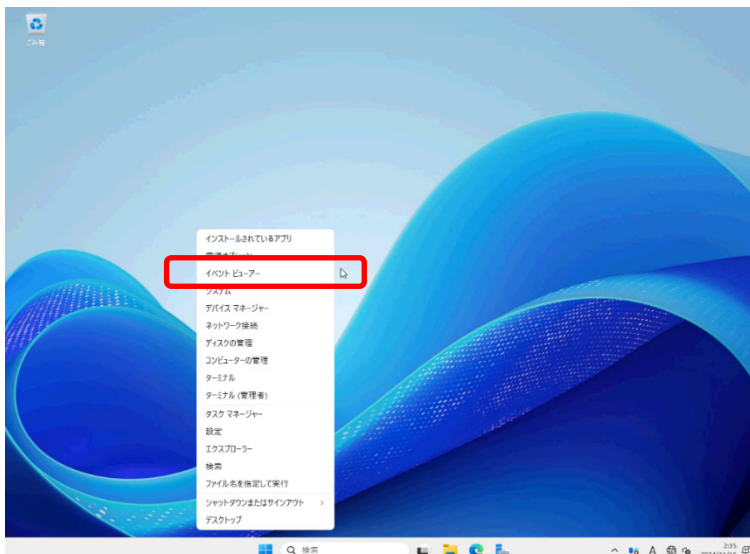
1.1 イベントログの採取

本機に起きたさまざまな事象（イベント）のログを採取します。



STOP エラー、システムエラー、またはストールしているときは、いったん再起動してから作業を始めます。

1. タスクバーの中央または左端の「スタート 」を右クリックして、「イベントビューアー」をクリックします。



2. [Windows ログ] 内でログの種類を選択します。

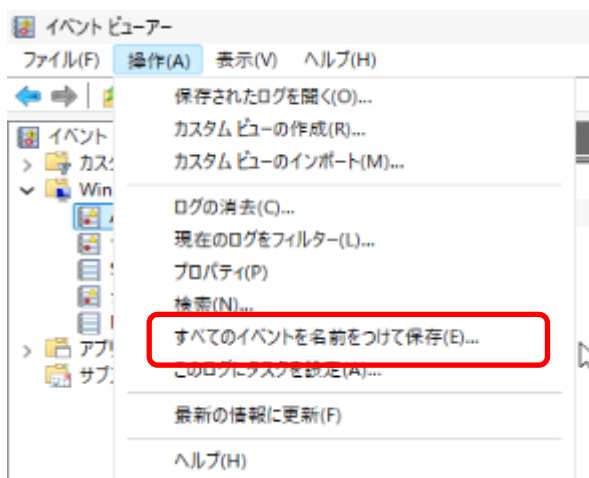
[Application] には、アプリケーションに関連するイベントが記録されています。

[セキュリティ] には、セキュリティに関連するイベントが記録されています。

[システム] には、Windows のシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。



3. [操作] メニューの [すべてのイベントを名前をつけて保存] をクリックします。



4. [ファイル名] に保存するログファイルの名前を入力します。

5. [ファイルの種類] で保存するログファイルの形式を選択し [保存] をクリックします。

6. 「表示情報」のダイアログボックスが表示されます。

保存したイベントログを別のコンピュータでも参照するときは、「これらの言語についての表示情報」を選択し、[OK] をクリックします。

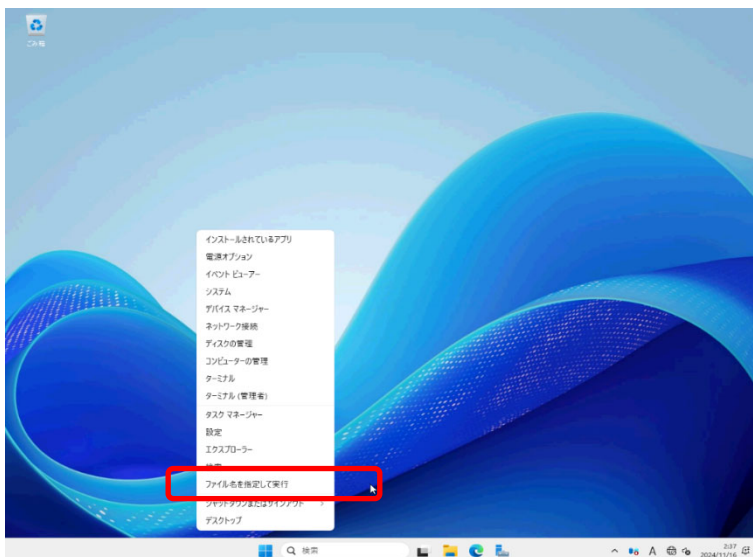
1.2 構成情報の採取

ハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。

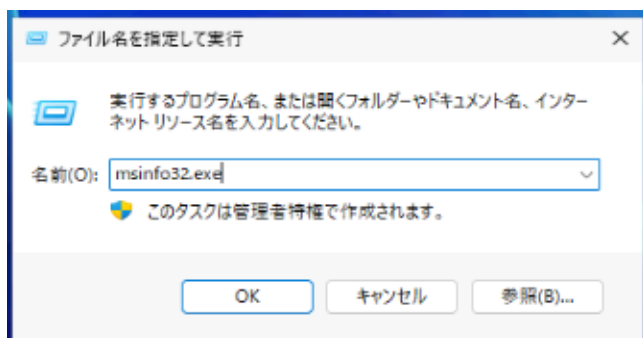


STOP エラー、システムエラー、またはストールしているときは、いったん再起動してから作業を始めます。

1. タスクバーの中央または左端の「スタート」 を右クリックして、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。



2. 「msinfo32.exe」と入力し、<Enter>キーを押します。



「システム情報」が起動します。

3. 「ファイル」から「エクスポート」をクリックします。
4. 保存するファイルの名前を「ファイル名」に入力して「保存」をクリックします。

1.3 ユーザーモードプロセスダンプの採取

アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。

詳細は、「1章(7.2 ユーザーモードのプロセスダンプの取得方法)」を参照してください。

1.4 メモリダンプの採取

エラーが起きたときのメモリの内容を採取します。保存先は任意で設定できます。

詳細は、「1章（7.1 メモリダンプ（デバッグ情報）の設定）」を参照してください。

メモリダンプは、保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。

正常に動作しているときに操作すると、システムの運用に支障をきたすおそれがあります。



エラーが起きた後に再起動すると、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。途中でリセットすると、メモリダンプが正しく保存できないことがあります。

2. トラブルシューティング

本機が正常に動作しないときは、修理を出す前にお手持ちのドキュメントを参照し、本機をチェックしてください。リストに該当する項目があるときは、記載の対処方法を試してください。

ここで記載していないときは、メンテナンスガイドを合わせて確認してください。

2.1 内蔵デバイス、その他ハードウェア使用時のトラブル

[?] LAN コントローラーのフロー制御について

→ フロー制御 (Flow Control) を「Auto Negotiation」、「Rx & Tx Enabled」、「Tx Enabled」または「送信 有効」、「送信/受信 有効」に設定している場合、受信負荷が高い状態においてシステムハングなどの要因でOSのパケット処理が停止すると PauseFrame が継続して送信されることがあります。このときスイッチ側には大量のパケットが滞留するためスイッチ内のバッファが不足し、スイッチに接続されたすべての通信機器に影響が出ることがあります。このようなケースを回避するためには、フロー制御を「Disabled」または「無効」に設定してください。

3. Windows システムの修復

Windows を動作させるために必要なファイルが破損したときは、次の手順に従って Windows システムを修復してください。



- 修復後、「1 章(4. デバイスドライバーのセットアップ)」および、「1 章(3. 差分モジュール(Starter Pack) の適用)」を参照し、各種ドライバーおよび Starter Pack を適用してください。
- ハードディスクドライブが認識できないときは、Windows システムの修復はできません。

3.1 Windows Server 2025 の修復

何らかの原因で Windows が起動できなくなったときは、インストールメディアの機能を使って修復できます。OS インストールメディアから起動し、Windows のセットアップウィザードの「コンピューターを修復する」を選択してください。この方法は、詳しい知識のあるユーザーや管理者のもとで実施してください。

1. ディスプレイ、本機の順に電源を ON するか、再起動します。
OS インストールメディアをセットします。
2. OS インストールメディアから起動します。
画面上部に「Press any key to boot from CD or DVD...」が表示されます。
メディアからブートさせるため、<Enter>キーを押してください。
ブートが進むと、「Loading files...」のメッセージが現れます。
3. [言語設定を選択]で、[次へ]をクリックします。
4. [キーボードを選択]で、[次へ]をクリックします。
5. [セットアップオプション選択]で、画面右下の[セットアップの以前のバージョン]をクリックします。
6. [Windows Server のセットアップ]で、[次へ]をクリックしたら、画面右下の[コンピューターを修復する]をクリックします。

NEC Express5800 シリーズ

3

付 録

1. Windows イベントログ一覧

Windows イベントログの一覧です。

1. Windows イベントログ一覧

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows OS 共通 【 システムログ 】

1	VDS Basic Provider	エラー	予期しないエラーが発生しました。エラーコード:32@01000004
	USB デバイスを使用する時		システム動作上、問題ありません。
51	Cdrom	警告	ページング操作中にデバイス¥Device¥CdRom0 上でエラーが検出されました。
	OS インストール時		イベントビューアーに本イベントが登録される場合がありますが、システムに問題ありません。
56	Application Popup	エラー	"ソース ""Application Popup"" からのイベント ID 56 の説明が見つかりません。このイベントを発生させるコンポーネントがローカル コンピューターにインストールされていないか、インストールが壊れています。ローカル コンピューターにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。 イベントが別のコンピューターから発生している場合、イベントとともに表示情報を保存する必要があります。 イベントには次の情報が含まれています: PCI XXXXXX メッセージ リソースは存在しますが、メッセージが文字列テーブル/メッセージ テーブルに見つかりません。
	OS インストール時、システム起動時、Starter Pack 適用時		LAN コントローラーが複数枚接続されている環境で本イベントが登録される場合がありますが、システム動作上、問題ありません。
129	iastorE	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort0 にリセットが発行されました。
	システム運用中		オンボードの RAID コントローラーで、SATA 光ディスクドライブ接続時、本メッセージが登録される場合がありますが、OS でリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。
129	Megasas35	警告	デバイス ¥Device¥RaidPort(x) にリセットが発行されました。 (x には数字が入ります)
	システム運用中		本メッセージがログに登録されても、OS でリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。
157	Disk	警告	ディスク x が突然取り外されました。
	RAID 作成時		Windows 上で RAID を新規作成した場合、本イベントが登録される場合がありますが、システム動作上、問題ありません。

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows OS 共通 【 システムログ 】

44801	megasas35	警告	<p>"ソース""megasas35""からのイベント ID 44801 の説明が見つかりません。このイベントを発生させるコンポーネントがローカル コンピューターにインストールされていないか、インストールが壊れています。</p> <p>ローカル コンピューターにコンポーネントをインストールするか、コンポーネントを修復してください。</p> <p>イベントが別のコンピューターから発生している場合、イベントと共に表示情報を保存する必要があります。</p> <p>イベントには次の情報が含まれています:</p> <p>¥Device¥RaidPort(x) VD yyy/z is now DEGRADED</p> <p>指定されたリソースの種類がイメージ ファイルが見つかりません。</p>
	RAID が縮退した場合		本イベントは RAID が縮退した場合に登録されます。メッセージが正しく表示されませんが、システム運用上の問題はありません。

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows Server 2025 【 システムログ 】

24	e1repress	エラー	<p>xxxxx #xx</p> <p>問題：ネットワーク・アダプターを開始できません。</p> <p>対処：http://www.intel.co.jp/content/www/jp/ja/support/network-and-i-o/ethernet-products/000005617.html から最新のドライバーをダウンロードしてインストールしてください。</p> <p>※ x は LAN ボードにより表示名が異なります。</p>
	システム起動時		<p>本イベントが登録された場合、通信障害が発生する可能性があります。以下のいずれかの対処を行い、本イベントが解決する事を確認してください。対処後も本イベントが登録される場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。</p> <p>対処：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ システムを再起動してください。 ・ 次の手順を参考にネットワークアダプターの無効と有効を行ってください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. [デバイスマネージャー]を起動します。 2. [ネットワークアダプター]を展開し、メッセージで表示されたネットワークアダプターを右クリックして、[デバイスを無効にする]を選択します。無効化の確認画面が表示された場合は、[はい]を選択します。 3. 再度、該当のネットワークアダプターを右クリックして、[デバイスを有効にする]を選択します。 <p>該当のネットワークアダプターと同一名のネットワークアダプターも手順 2 ～ 3 を実行します。</p>
27	e1i68x64	警告	<p>xxxxx #xx</p> <p>Network link is disconnected.</p> <p>※ x は LAN ボードにより表示名が異なります。</p>
	OS インストール時、システム起動時、Starter Pack 適用時		システム動作上、問題ありません。
27	e1repress	警告	<p>xxxxx #x</p> <p>ネットワーク・リンクが切断されました。</p> <p>※ x は LAN ボードにより表示名が異なります。</p>
	OS インストール時、システム起動時、Starter Pack 適用時		システム動作上、問題ありません。
27	ixgbs	警告	<p>xxxxx #xx</p> <p>ネットワーク・リンクが切断されました。</p> <p>※ x は LAN ボードにより表示名が異なります。</p>
	OS インストール時、システム起動時、Starter Pack 適用時		システム動作上、問題ありません。
27	ixi68x64	警告	<p>xxxxx #xx</p> <p>Network link is disconnected.</p> <p>※ x は LAN ボードにより表示名が異なります。</p>
	OS インストール時、システム起動時、Starter Pack 適用時		システム動作上、問題ありません。

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows Server 2025 【 システムログ 】

134	Microsoft-Windows-Time-Service	警告	使用可能なタイム スタンプがタイム サービス プロバイダーによって提供されなかったため、タイム サービスは 7800 秒間、システム時刻を同期していません。タイム サービスは、タイム ソースと同期できるようになるまで、ローカルのシステム時刻を更新しません。ローカル システムがクライアントの時刻サーバーとして機能するように構成されている場合は、タイム ソースとしてクライアントにアドバタイズすることを 78599 秒後に停止します。タイム サービスは継続してタイム ソースとの同期を試みます。詳細については、他の W32time イベントのシステム イベント ログを確認してください。'w32tm /resync' を実行すると、時刻の同期を即座に強制実施できます。タイム ソースの再検出の頻度は、ClockHoldoverPeriod W32time 構成設定を使用して制御できます。このメッセージを無効にする場合は、EventLogFlags W32time 構成設定を変更してください。
	システム運用中		システム運用上、問題ありません。
134	Microsoft-Windows-Time-Service	警告	time.windows.com,0x8' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。15 分後に再試行し、それ以降は 2 倍の間隔で再試行します。エラー: そのようなホストは不明です。 (0x80072AF9)
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていなければ、システム運用上、問題ありません。
157	Disk	警告	ディスク x が突然取り外されました。
	RAID 作成時		Windows 上で RAID を新規作成した場合、本イベントが登録される場合がありますが、システム動作上、問題ありません。
225	Kernel-PnP	警告	プロセス ID XXX のアプリケーション YYY はデバイス ZZZ コマンドライン: YYY 影響を受けるデバイスの一覧: STORAGE¥Volume¥<GUID> の削除を停止しました *ZZZ は対象のデバイス インスタンス 名 YYY はデバイスを使用していたプロセス名 XXX はデバイスを使用していたプロセス ID が入ります。
	Starter Pack 適用中		システム運用上、問題ありません。

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows Server 2025 【 システムログ 】

280	Microsoft-Windows-Hyper-V-VmSwitch	警告	VMS 使用率プランの Vport QueuePairs が、要求された数 (xx) から実際の数 (xx) に調整されました。 理由: 要求された数、物理 NIC でサポートされている VPort あたりの QP の最大数を超過しています。 NIC 名: /DEVICE/{xxxxxxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxxxxxxxxxx} (フレンドリ名:xxxxx #xx)。 ※ x は LAN ボードにより異なります。
	Switch Embedded Teaming (SET) 機能を使用した仮想スイッチを作成したとき、Switch Embedded Teaming (SET) 機能を使用した仮想スイッチを仮想マシンに指定した状態で仮想マシン、Hyper-V ホストを再起動したとき		システム動作上、問題ありません。
1014	Microsoft-Windows-DNS-Client	エラー	Removing language pack,言語 ja-JP は、システムによってインストールされた UI 言語であるためアンインストールできません。
	OS インストール時		OS インストール時に一度だけ発生する場合は、システムへの影響はありません。
1796	Microsoft-Windows-TPM-WMI	エラー	セキュア ブートの更新でセキュア ブート変数を更新できませんでした。<エラーコード> です。詳細については、 https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=2169931 を参照してください
	OS 再起動時など		システム運用上、問題ありません。 詳細は、 https://jpwinsup.github.io/blog/2024/11/13/UEFI/Secure%20Boot/AboutTPM-WMI1796/ や、 https://go.microsoft.com/fwlink/?linkid=2169931 を参照してください。
4162	iastorE	エラー	I/O issued to empty Optical Disk Drive (media not present) XXXXXXXX. (XXXXXXXX にはシリアル番号やドライブ名などのデバイス情報が入ります)
	光ディスクの取り出し時、光ディスクの取り出し後の再起動時		システム動作上、問題ありません。
4163	iastorE	エラー	I/O on XXXXXXXX has failed. (XXXXXXXX にはシリアル番号やドライブ名などのデバイス情報が入ります)
	CD-R または CD-RW のブランクメディアへのアクセス時、CD-RW 媒体の消去時		システム動作上、問題ありません。
4163	iastorE	エラー	I/O on XXXXXXXX has failed. (XXXXXXXX にはシリアル番号やドライブ名などのデバイス情報が入ります)
	Arcserve Backup Tape Engine サービスが起動時(OS 起動時含む)		システム動作上、問題ありません。

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows Server 2025 【 システムログ 】

7023	Service Control Manager	エラー	xxxxxxx サービスは、次のエラーで終了しました:デバイスの準備ができていません。
	OS 初回起動時		継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
7024	Service Control Manager	エラー	Distributed Transaction Coordinator サービスは、次のサービス固有エラーで終了しました: %%3221229627
	OS インストール時		OS インストール時に一度だけ発生する場合は、システムへの影響はありません。
7030	Service Control Manager	エラー	Printer Extensions and Notifications サービスは、対話型サービスとしてマークされています。しかし、システムは対話型サービスを許可しないように構成されています。このサービスは正常に機能しない可能性があります。
	OS 初回起動時		継続して同じイベントログが登録されていなければ、問題ありません。
10010	Microsoft-Windows-DistributedCOM	エラー	サーバー{XXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXXXX}は、必要なタイムアウト期間内に DCOM に登録しませんでした。
	システム運用中		システム運用上、問題はありません。
10016	Microsoft-Windows-DistributedCOM	警告	アプリケーション固有のアクセス許可の設定では、CLSID{*****} および APPID {*****} の COM サーバーアプリケーションに対するローカルアクティブ化のアクセス許可を、アプリケーションコンテナ利用不可 SID (利用不可)で実行中のアドレス LocalHost (LRPC 使用) のユーザー ***** SID (*****) に与えることはできません。このセキュリティアクセス許可は、コンポーネントサービス管理ツールを使って変更できます。
	OS 初回起動時、システム起動時、システム運用中		システム運用上、問題はありません。
10149	Microsoft-Windows-WinRM	警告	WinRM サービスは、WS-Management 要求をリッスンしていません。
	OS 再起動時		WinRM イベント 10148 (WinRM サービスは、WS-Management 要求をリッスンしています。) が直後に出力された場合は、無視しても問題ありません。

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows Server 2025 【 システムログ 】

10400	Microsoft-Windows-NDIS	警告	<p>ネットワーク インターフェイス "Intel(R) Ethernet Controller X550" はリセットを開始しました。ハードウェア リセットの間にネットワーク接続が一時的に中断します。</p> <p>理由 : The network driver detected that its hardware has stopped responding to commands. このネットワーク インターフェイスは、最後に初期化されてから xx 回リセットされました。</p>
	N8104-157A にて、LAN ケーブルおよびスイッチングハブが接続されている状態でのシステム起動時または設定変更時		<p>システム動作上、問題ありません。</p> <p>本イベントを回避したい場合は、以下の手順で N8104-157A の NDIS QoS を無効に設定してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. [デバイスマネージャー]を起動します。 2. [ネットワークアダプター]を展開し、メッセージで表示されたネットワークアダプターをダブルクリックしプロパティを表示します。 3. [詳細設定]タブを選択し、[NDIS QoS]を「無効」に変更します。 4. [OK]をクリックし、システムを再起動します。 <p>NDIS QoS を無効に設定した後も本イベントが登録される場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。</p>
10400	Microsoft-Windows-NDIS	警告	<p>ネットワーク インターフェイス "xxxxx" はリセットを開始しました。ハードウェア リセットの間にネットワーク接続が一時的に中断します。</p> <p>理由 : The network driver detected that its hardware has stopped responding to commands. このネットワーク インターフェイスは、最後に初期化されてから xx 回リセットされました。</p> <p>※ x は LAN ボードにより表示名が異なります。</p>
	通信中にネットワークの切断が発生した場合		<p>通信中にネットワークが切断されたことが原因で本イベントが登録されます。e1rexpress または ixp イベント ID 27 のイベントも登録されます。</p> <p>また、ネットワークが復旧した場合、通信は正常に回復します。</p> <p>ネットワークの切断について調査が必要な場合は、保守サービス会社にお問い合わせください。</p>

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows Server 2025 【アプリケーションログ】

23	Microsoft-Windows-AppModel-State	警告	パッケージ <パッケージ名> に対する操作 InitializeDataChangedSignaler でエラー -2147024894 が発生したため、状態の場所の修復がトリガーされました。
	OS 初回起動時		ID 24 に記録された同名パッケージのエラーコードが 0 で終了している場合、無視して問題ありません。
24	Microsoft-Windows-AppModel-State	警告	パッケージ <パッケージ名> に対する操作 InitializeDataChangedSignaler の状態の場所の修復で エラー -2147024894 が発生しました。 エラー コード: 0
	OS 初回起動時		記録されたイベントログ末尾のエラーコードが 0 で終了している場合、無視して問題ありません。
86	Microsoft-Windows-CertificateServicesClient-CertEnroll	エラー	https://IFX-KeyId-5d0815951f5f60638a69e7252f3ec4becd7554b2.microsoftaik.azure.net/templates/Aik/scep を経由した WORKGROUP¥<コンピューター名>\$ の SCEP 証明書登録の初期化が失敗しました。 GetCACaps 方法: GET(921ms) ステージ: GetCACaps サーバー名またはアドレスは解決されませんでした 0x80072ee7 (WinHttp: 12007 ERROR_WINHTTP_NAME_NOT_RESOLVED)
	システム起動時		システム運用上、問題はありません。 TPM を搭載した環境下で、インターネットに接続していない場合に登録されることがあります。
1015	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	HRESULT の詳細情報。返された hr=0xC004F022、元の hr=0x*****
	OS 再起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。
3007	EvntAgnt	警告	イベント ログ ファイル Parameters を開くときにエラーが発生しました。ログは処理されません。 OpenEventLog からのリターン コードは 87 です。
	SNMP を有効にしたとき		再起動ごとに登録されますが、無視して問題ありません。
3007	EvntAgnt	警告	イベント ログ ファイル State を開くときにエラーが発生しました。ログは処理されません。 OpenEventLog からのリターン コードは 87 です。
	SNMP を有効にしたとき		再起動ごとに登録されますが、無視して問題ありません。

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows Server 2025 【アプリケーションログ】

8198	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	ライセンス認証 (slui.exe) が失敗しました。エラーコード: hr=0x***** コマンドライン引数: RuleId=*****
	OS 再起動時		ライセンス認証完了後、継続して登録されていなければ問題ありません。
16398	Microsoft-Windows-Security-SPP	エラー	No grace timer found. で猶予期間の 0x80070490 中にエラーが発生しました
	ライセンス認証時、OS 再起動時など		ライセンス認証済みの場合、無視しても問題ありません。

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows Server 2025 【アプリケーションとサービスログ】

21	Microsoft-Windows-AppModel-Runtime	エラー	AppContainer oncore¥ds¥security¥gina¥profile¥profext¥appcontainer.cpp Line:1862 Usermode Font Driver Host microsoft.windows.fontdrvhost に対する CreateAppContainerProfile がエラー 0x8007000A で失敗しました。
	OS インストール時、システム起動時		継続して登録されなければ問題ありません。
33	Microsoft-Windows-AppModel-Runtime	エラー	AppContainer 名を検索できなかったため、AppContainer プロファイルがエラー 0x80670015 で失敗しました。
	OS 初回起動時、OS インストール時、OS 再起動時		無視して問題ありません。
66	Microsoft-Windows-AppModel-Runtime	エラー	ユーザー ***** のパッケージ Windows の AppModel-Runtime 状態を取得しているときに 0x57 で失敗しました。
	OS インストール中		OS インストール時に一度だけ発生する場合は、システムへの影響はありません。
200	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Update サービスへの接続を確立できませんでした。
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていない場合は、システム運用上、問題ありません。
201	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	Windows Metadata and Internet Services (WMIS) への接続を確立できませんでした。
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていない場合は、システム運用上、問題ありません。
202	Microsoft-Windows-DeviceSetupManager	警告	ネットワークリソースマネージャーは、インターネットに接続していないことをレポートしています。
	システム運用中		インターネット接続後に登録されていない場合は、システム運用上、問題ありません。
215	Microsoft-Windows-AppReadiness	エラー	<ユーザー> の 'ART:AppxPreRegistration' が失敗しました。 エラー: 'クラスが登録されていません' (13282283662.4891 秒)
	OS インストール中		継続して登録されなければ問題ありません。
359	Microsoft-Windows-PrintService	エラー	プリンターを追加しています、プリンター Microsoft Print To PDF をオフライン オペレーティング システム イメージにインストールしようとしたますが、Win32 エラー コード 587 (0x24b) で失敗しました。これは、プリンター ドライバーのインストール中にユーザー入力が必要な場合、またはユーザー インターフェイス (UI) が表示される場合に発生します。
	OS 初回起動時、OS インストール時、OS 再起動時		仮想プリンター(Microsoft Print To PDF) を利用できない可能性があります、最新の更新プログラムを適用すると改善されます。

ID	ソース	種類	メッセージ (説明)
	イベントログが登録されるタイミング		対応

Windows Server 2025 【アプリケーションとサービスログ】

360	Microsoft-Windows-User Device Registration	警告	Windows Hello for Business provisioning will not be launched. Device is AAD joined (AADJ or DJ++): Not Tested User has logged on with AAD credentials: No Windows Hello for Business policy is enabled: Not Tested Windows Hello for Business post-logon provisioning is enabled: Not Tested Local computer meets Windows hello for business hardware requirements: Not Tested User is not connected to the machine via Remote Desktop: Yes User certificate for on premise auth policy is enabled: Not Tested Machine is governed by none policy.
	OS 再起動時		Microsoft Azure AD に登録していない環境下で発生する場合は、問題ありません。
1001	Microsoft-Windows-Dhcp-Client	エラー	ネットワーク アドレスが <MAC アドレス> のネットワーク カードに対するアドレスをネットワーク (DHCP サーバー) からこのコンピューターに割り当てることができませんでした。次のエラーが発生しました: 0x79。ネットワーク アドレス (DHCP) サーバーから引き続き、アドレスの取得を試みます。
	OS 初回起動時、OS 再起動時		OS 再起動中に発生し、以降継続して発生していなければ、問題ありません。
10149	Microsoft-Windows-WinRM	警告	WinRM サービスは、WS-Management 要求をリスンしていません。 ユーザー操作 意図的にサービスを停止していない場合、次のコマンドを使用して WinRM 構成を確認してください。 winrm enumerate winrm/config/listener
	OS 初回起動時、OS 再起動時		WinRM イベント 10148 (WinRM サービスは、WS-Management 要求をリスンしています。)が直後に出力された場合は、無視しても問題ありません。

改版履歴

版数（ドキュメント番号）	発行年月	改版内容
初版（CBZ-002473-394-00）	2025年1月	新規作成